

令和5年度  
春日市文化財年報

2024

春日市



## 序

春日市は福岡市の南に隣接しており、恵まれた立地から昭和の高度経済成長期以降、住宅都市として発展しています。昭和47年の市制施行時に、約4万5千人であった人口は増加の一途をたどり、現在では14.15 km<sup>2</sup>の面積に約11万人が暮らす、九州で最も人口密度の高い市となりました。

本市が位置する福岡平野は、古くから中国大陆や朝鮮半島との交流の玄関口として栄えてきました。なかでも春日市の中央部にある春日丘陵の北半とその周辺には、弥生時代の遺跡が密集しています。その規模は、東西1 km、南北2 km以上に及び、総称して須玖遺跡群と呼びます。近年、重要な発見が相次ぎ、中国の歴史書である『後漢書』や『魏志』倭人伝に記された「奴国」の王都と称されています。

本書は、令和5年度に実施した市内での埋蔵文化財の発掘調査及び奴国の丘歴史資料館の事業の概要をまとめたものです。また、市民による春日市文化財保存活用地域計画策定のための活動記録なども収めました。本書が広く一般に活用され、市民の方々が文化財への理解を深めるための一助となれば幸いです。

最後になりましたが、埋蔵文化財の調査及び資料館事業において御協力をいただきました皆様に心よりお礼申し上げます。

令和6年8月31日

春日市奴国の丘歴史資料館  
名誉館長 武末純一

## 目 次

I	文化財保護事業の現状と組織	1
II	発掘調査の概要	
1	高辻D・F遺跡（4次調査）（Ⅱ期）	2
2	丸尾遺跡（1次調査）	5
3	須玖岡本遺跡岡本山区（19次調査）	8
4	古水遺跡（6次調査）	11
5	須玖坂本B遺跡（10次調査）	14
6	平若A遺跡（7次調査）	17
7	野藤遺跡（9次調査）	20
8	天神山水城跡（16次調査）	23
9	須玖岡本遺跡岡本地区（28次調査）	26
10	古水遺跡（7次調査）	29
11	須玖岡本遺跡岡本地区（27次調査）	32
III	文化財普及啓発事業	
1	企画展示等	34
2	やきものづくり教室	35
3	奴国ラボ	35
4	ジュニアガイド養成講座	35
5	ブラかすが歴史散歩	36
6	弥生の里かすが奴国の丘フェスタ	36
7	学習支援活動	36
8	ワークショップ	36
9	歴史講座	37
10	出前講座等	37
11	ボランティア組織	37
12	貸出資料	38
13	入館者数	38
14	利用案内	38
IV	附編（調査・研究報告）	
1	令和5年度須玖岡本遺跡確認調査（地中レーダー探査）	39
2	文化財保存活用地域計画と武末会	42

## 例 言

- 1 本書は、春日市協働推進部文化財課が、令和5年度に行った文化財事業の概要をまとめたものである。
- 2 本書の作成は、担当者が分担して行い、第IV章2については、春日市文化財調査員の寺崎直利、有吉友雄、神崎由美、坂井一富が執筆した。
- 3 本書に使用した各種図版の作成は、吉村美保が行った。
- 4 本書に使用した写真の一部は、有限会社空中写真企画、写測エンジニアリング株式会社の撮影による。
- 5 第II章、第IV章1・2については、文末に報告者名を記した。

# I 文化財保護事業の現状と組織

春日市では昭和 52 年以降、埋蔵文化財の保存、保護に伴う発掘調査体制を発足させ、整備を行いながら今日に至った。土木、建築工事等による埋蔵文化財の破壊を避けるために事前審査を行い、現状での保存ができない埋蔵文化財については発掘調査による記録保存を行っている。

令和 5 年度の開発事前審査における文化財有無の問い合わせ件数は 1637 件、事前審査のうち試掘・確認調査は 55 件（内文書審査 1 件）であり、前年度と比較すると、問い合わせ件数がやや減少している。開発内容は、共同住宅建設が 9 件（16%）、戸建住宅件数が 34 件（61%）で、その他の 10 件を含めると申請件数の約 7 割が住宅建設に伴うものである。

このうち埋蔵文化財が確認され、文化財保護法第 93・94 条の規定に基づき本調査を行うようになったものは 7 件、工事立ち合いで対処したものは 28 件である。埋蔵文化財が確認されず、慎重工事で対処したものは 25 件である。

文化財普及啓発事業では、これまでの調査・研究で明らかになった須玖遺跡群の全体像を紹介した考古企画展「わたしたちの須玖遺跡群」を行った。さらに、令和 10 年度に策定する『文化財保存活用地域計画』の一環として、地域住民と協働した文化財マップ作りを実施した。このほか、市内小学校の授業や自治会主催のイベント支援、他博物館資料館への資料貸出等、文化財の活用にも努めた。市内外への文化財の啓発のため第 11 回弥生の里かすが奴国の丘フェスタを開催した。

令和 5 年度の文化財行政にかかる組織体制は次の通りである。

協働推進部長 久保山竜治

文化財課長 高田勘治

整備活用担当

課長補佐	高田博之
主 査	森井千賀子
主 任	木村太郎
主 任	岩本慎平
会計年度任用職員	西尾純司
会計年度任用職員	水田美怜

調査保存担当

統括係長	井上義也
主 査	吉田佳広
主 任	山崎悠郁子
主 任	熊埜御堂早和子
主 事	藤謙太朗
会計年度任用職員	下田詩織
会計年度任用職員	濱邊空
会計年度任用職員	石橋美穂

## Ⅱ 発掘調査の概要

### 1 高辻D・F遺跡（4次調査）（Ⅱ期）

所在地 春日市小倉東2丁目23、27番

調査面積 約700㎡（Ⅰ期調査面積との合計約1,680㎡）

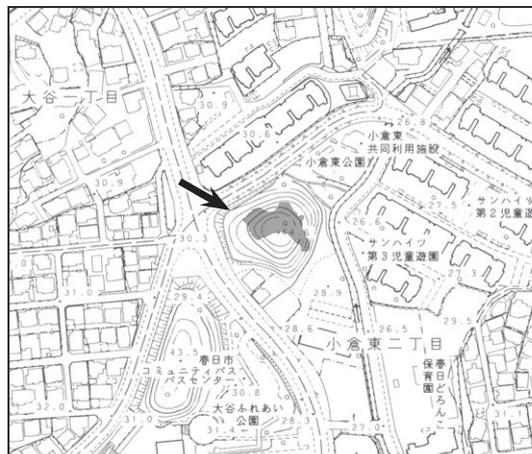
調査期間 2023年4月1日～7月11日

高辻D・F遺跡は春日丘陵の中央付近にあり、奴国の中心地とされる須玖遺跡群内では南端に位置している。4次調査地は東方に延び出た小丘陵上にあるが、北側及び西側は後世の開削により急峻な崖になっている。検出面の標高は最高地で40m前後で、丘陵裾部との比高差は約10mほどである。対象地西側の2次・3次調査地点では、弥生時代中期末頃の大溝が検出されており、須玖遺跡群を囲む環濠の一部である可能性が指摘されている。

今回の調査は、昨年度宅地造成工事に伴う緊急発掘調査として実施したⅠ期調査を引き継ぐⅡ期調査で、調査区は丘陵頂部を中心とする。

#### 遺構・遺物

現地表面から40～50cm程で風化花崗岩質土壌の地山が表われ、遺構を検出した。Ⅰ期調査において



1. 調査地の位置（1/5000）



2. 調査区全景（東から）

南側斜面の堆積層から6～7世紀代の須恵器などが出土しており、古墳時代後期以後の遺構の検出を想定していたが、予想に反し弥生時代の遺構や遺物が主体で、弥生時代中期から終末期・古墳時代初頭にかけての竪穴建物跡14軒、土坑6基、ピット多数を検出した。以下に代表的な遺構の概要を記す。



3. 調査区全景（上が北）

10号竪穴建物跡は調査区の北端に位置し、北西隅は大きく攪乱される。6.3 × 5.2 m

の長方形を呈し、深さ20cmを測る。主柱は2本で、床面中央に炉跡を確認した。南西隅に造り付けのベッド状遺構を確認したが、重複する9号竪穴建物に攪乱され、東半部の状況は不明である。床面からやや浮いた状態で、ほぼ完形の鉄斧が出土した。出土土器が乏しく遺構の時期の断定は難しいが、弥生時代後期の所産ではあろう。17号竪穴建物跡は調査区の西側に位置し、東側が21号竪穴建物跡を切り、南側は16号竪穴建物跡に切られている。遺構の残存状況は良くないが、4.5 × 5.1 mの長方形を呈する。主柱は2本である。床面からやや浮いた状態で完形の鉄斧や圭頭形の有茎鉄鏃が出土した。遺構の時期は弥生時代後期と考えられる。18号竪穴建物跡は、17号竪穴建物跡の北側に隣接し、遺構の西側及び東側の一部が大きく攪乱される。3.8 × 5.1 mの長方形を呈し、深さ10～21cmを測る。南北の壁際に壁溝を確認した。主柱は2本と考えられるが、西側の柱穴は攪乱され消滅している。北壁際の床面直上から小形丸底壺が1点出土したほか、多数の弥生土器片、石製管玉や不明鉄製品片が出土した。遺構の時期は古墳時代初頭と考えられる。

13号土坑は調査区の南端部に位置し、西半部が抜根で破壊される。直径3.2 mの整円形を呈し、深さは1.4 mを測る。底面も整円形で平坦である。覆土の上層より瓢形土器や丹塗の壺など多数の弥生土器が出土した。弥生時代中期の貯蔵穴と考えられる。

## 小 結

Ⅱ期調査では、弥生時代中期から弥生時代終末期・古墳時代初頭にかけての住居跡群を検出し、断続的に集落が展開する様子が確認できた。多くの方形プランの竪穴建物跡が円形プランの竪穴建物跡を切って検出されており、住居形態の変遷が窺える。しかし、方形プランの竪穴建物跡同士でも新旧関係があり、今後はⅠ期調査の成果も踏まえながら、住居形態等を含めた集落構造の検討が課題と言えよう。

また、検出した14軒の竪穴建物跡のうち、8号竪穴建物跡を除く13軒から鉄斧や鉄鏃など、なんらかの鉄器が1個体以上見ついている。いずれも床面から浮いた状態で出土していることから、弥生時代の鉄器とすることの当否についてなど、科学的分析を行い、これらの遺物が祭祀行為により廃棄されたものか、後世の混入品か判断したい。

(吉田)



4. 遺構配置図 (1/250)

## 2 丸尾遺跡（1次調査）

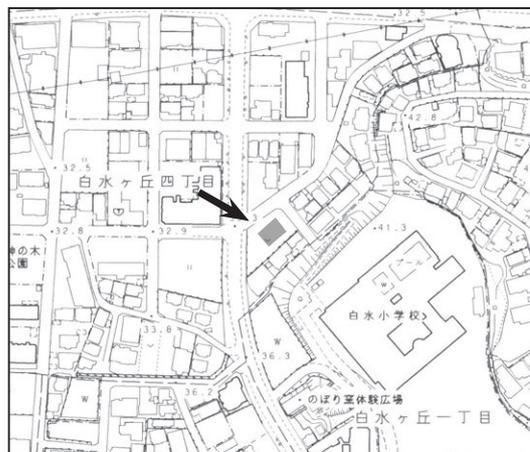
所在地 春日市白水ヶ丘4丁目53番

調査面積 192 m<sup>2</sup>

調査期間 2023年4月10日～5月12日

丸尾遺跡は、春日市の南西部に位置する。2023年1月に行った試掘調査により新たに確認された遺跡である。当地は、春日丘陵西側に位置する小丘陵の裾部にあり、遺構面の標高は、33 m前後を測る。周辺には、弥生から歴史時代の遺跡が広く分布しており、同遺跡南方の丘陵上には、瓦窯跡2基他を確認したウトグチB遺跡などが存在する。

今回の調査は、住宅建設に伴う緊急発掘調査である。



1. 調査地の位置 (1/5000)

### 遺構・遺物

検出した遺構は、土坑3基、溝2条などを検出し、弥生土器、土師器、須恵器、貿易陶磁器、7世紀後半～8世紀頃の平瓦などが出土した。

3号土坑は、調査区の北部で検出した。1・2号溝に切られるが、平面形は、2.5 m程度の略楕円形



2. 調査区全景（南西から）

を呈し、深さは約 30cm である。土坑内から弥生土器の小片が出土した。1号溝は、調査区中央部を僅かに蛇行しながら東西方向へ延びる。幅 1.0～1.4 m で深さは約 30～40cm である。覆土は主に上層の暗灰褐色粘質土と、下層の青灰色砂質土に分かれる。下層の状況から水が流れていたと考えられる。上層からは、弥生土器や須恵器、古代瓦、龍泉窯系青磁の小片などが出土したが、下層からは、土師器の小片 1 点が出土したのみである。2号溝は、調査区北部で検出した。幅 0.8～1.0 m で南北方向に延び、1号溝に切られる。深さは、約 20cm である。2号溝の上層から、朝鮮半島系軟質土器の平底鉢などが出土した。

#### 小 結

1号溝の時期は、上層に青磁片が散見されることから、13世紀頃に完全に埋没したと推測される。開削の時期は、下層に含まれた土師器の小片 1 点で判断するのは心許ないが、古墳時代以降と考えられる。特筆すべき遺物としては、2号溝から出土した朝鮮半島系軟質土器が注目される。

調査地は、遺構密度が希薄であるため、集落の縁辺部に当たると考えられ、周辺で朝鮮半島と関連を持つ集落の存在が予想されるが不明な部分が多い。詳細については、今後の調査の進展に期待したい。

(藤)



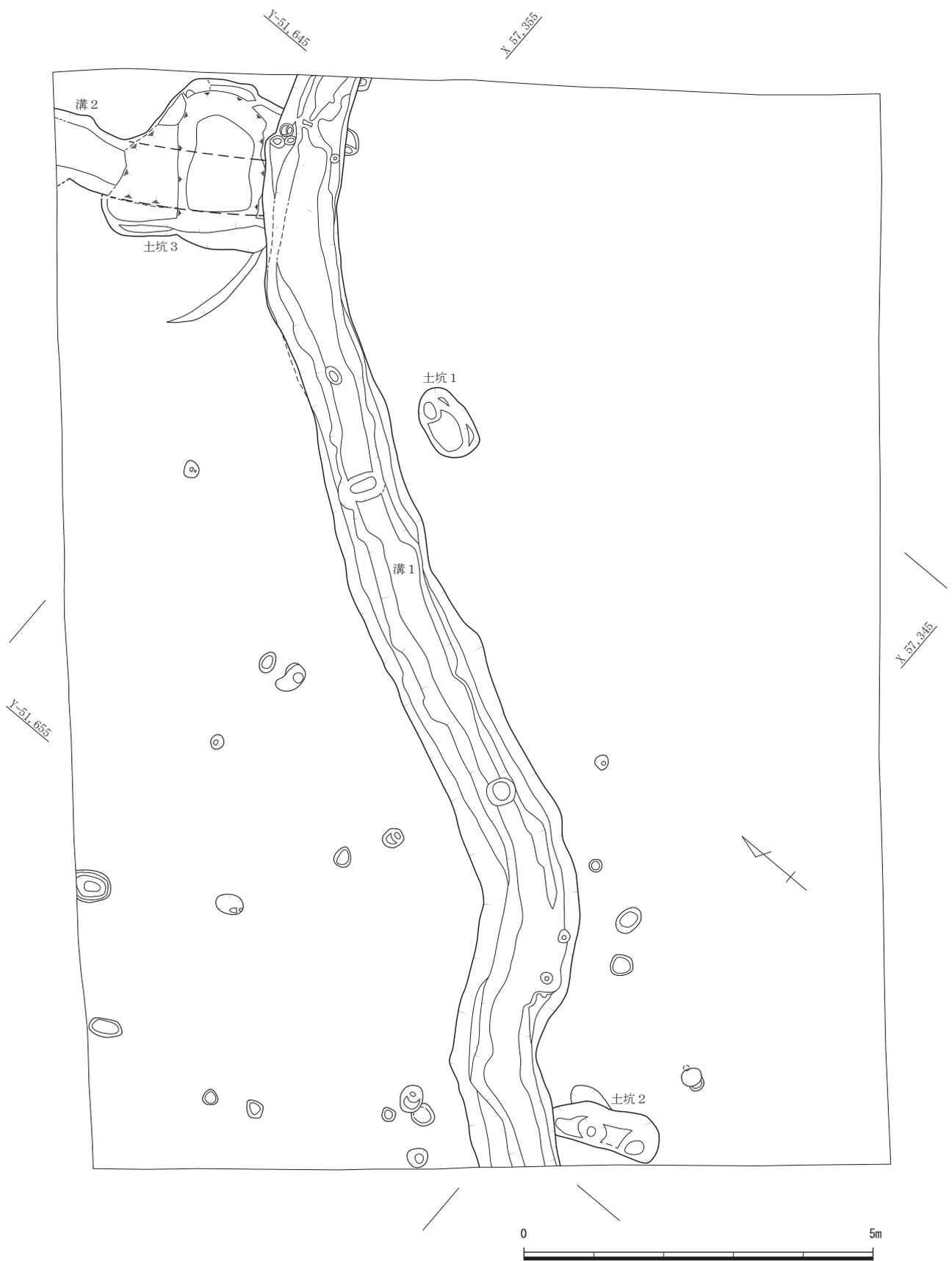
3. 3号土坑 (東から)



4. 1号溝土層 (東から)



5. 2号溝土層 (南から)



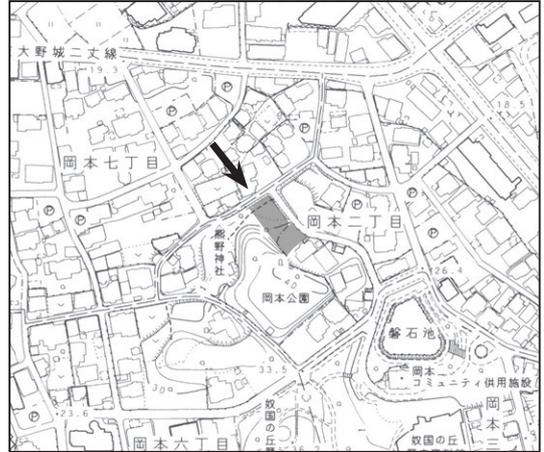
6. 遺構配置図 (1/80)

### 3 須玖岡本遺跡岡本山地区 (19次調査)

所在地 春日市岡本2丁目90番1、91番1・3

調査面積 15.75 m<sup>2</sup>

調査期間 2023年5月21日～8月22日



1. 調査地の位置 (1/5000)

対象地は、須玖岡本遺跡南部の丘陵地に所在する。19次調査は熊野神社の北東部に位置し、周辺で行われた熊野神社境内、岡本公園の8次調査では甕棺墓を確認し、一部で墳丘墓の可能性のある溝も調査した。また、熊野神社社殿下の高まりが後期古墳であることもほぼ確定できた。北西側の盤石地区1次調査では甕棺墓を2基検出した。当該地東側の盤石地区3・6次調査では7世紀後半～8世紀の瓦を伴う掘立柱建物跡を確認した。19次調査地には高まりがあったが、これが熊野神社社殿下で見られるような後期古墳なのか、後世の盛土なのか、或いは弥生時代の墳丘墓の可能性はないのかなども考えられたが、検証材料はなかった。

なお、当該地は令和4年度に地中レーダー探査を行い、甕棺墓や古墳の石室などの反応は見られなかった。また、1980年発行の福岡県の遺跡地図では、熊野神社境内に熊野神社1～3号墳が記述されるが、詳細は不明である。

なお、当該地は令和4年度に地中レーダー探査を行い、甕棺墓や古墳の石室などの反応は見られなかった。また、1980年発行の福岡県の遺跡地図では、熊野神社境内に熊野神社1～3号墳が記述されるが、詳細は不明である。



2. 調査区全景 (北側上空から)

## 遺構・遺物

平板測量で25cm間隔の等高線を入れた後に、地中レーダー探査の結果や、高まりのほぼ中心から石材が抜かれたような形状をなす西側を基準（4トレンチ）に、幅1mの4つのトレンチを設定した。

1トレンチは、地表下40cmで遺構を確認した。トレンチの中ほどには、攪乱を受けた中型棺（壺+甕）を検出し、それに切られる墓坑は成人棺の可能性もある。東端部付近の上層は須恵器を含み、古墳の周溝と考えられ、瓦片も出土した。その下に、土坑状の掘り込みがあり、弥生時代の土坑墓か木棺墓の可能性もある。2トレンチは、地表下30cm前後で地山を確認し、ブロック塀を境にⅠ・Ⅱ区に分けた。Ⅰ区は著しい攪乱を受けるが、墳丘と考えられる土層を確認した。Ⅱ区は古墳の周溝を検出した。周溝外側壁面に弥生時代の中型棺が出土した。なお、周溝内からは弥生土器、須恵器や瓦が出土した。3トレンチは、地表下90cm前後で地山に達した。かなり下層で陶磁器が出たので削平や攪乱を受けたことが分かる。しかしながら、掘り込みは浅いが、周溝外側の掘り込みを検出した。4トレンチは、地表下40cm前後で遺構を確認した。未掘のため遺構の性格は不明だが、それよりも上に花崗岩礫や扁平石材が、須恵器や瓦と共に出土する。花崗岩礫は古墳の石室材、瓦は東側の盤石地区3・6次調査と関連しようが、当該地の周辺に古代の官衙的な建物が広がっていた可能性がある。なお、扁平石材は表面が赤くなっているものがあり、石室材の可能性もある。

## 小 結

以上のことから、高まりは古墳（須恵器から後期）で、弥生時代も墓地であったことが分かる。なお、石室材や甕棺が地中レーダー探査で反応しなかったことについては、今後検証したい。（井上）



3. 1トレンチ全景（東から）



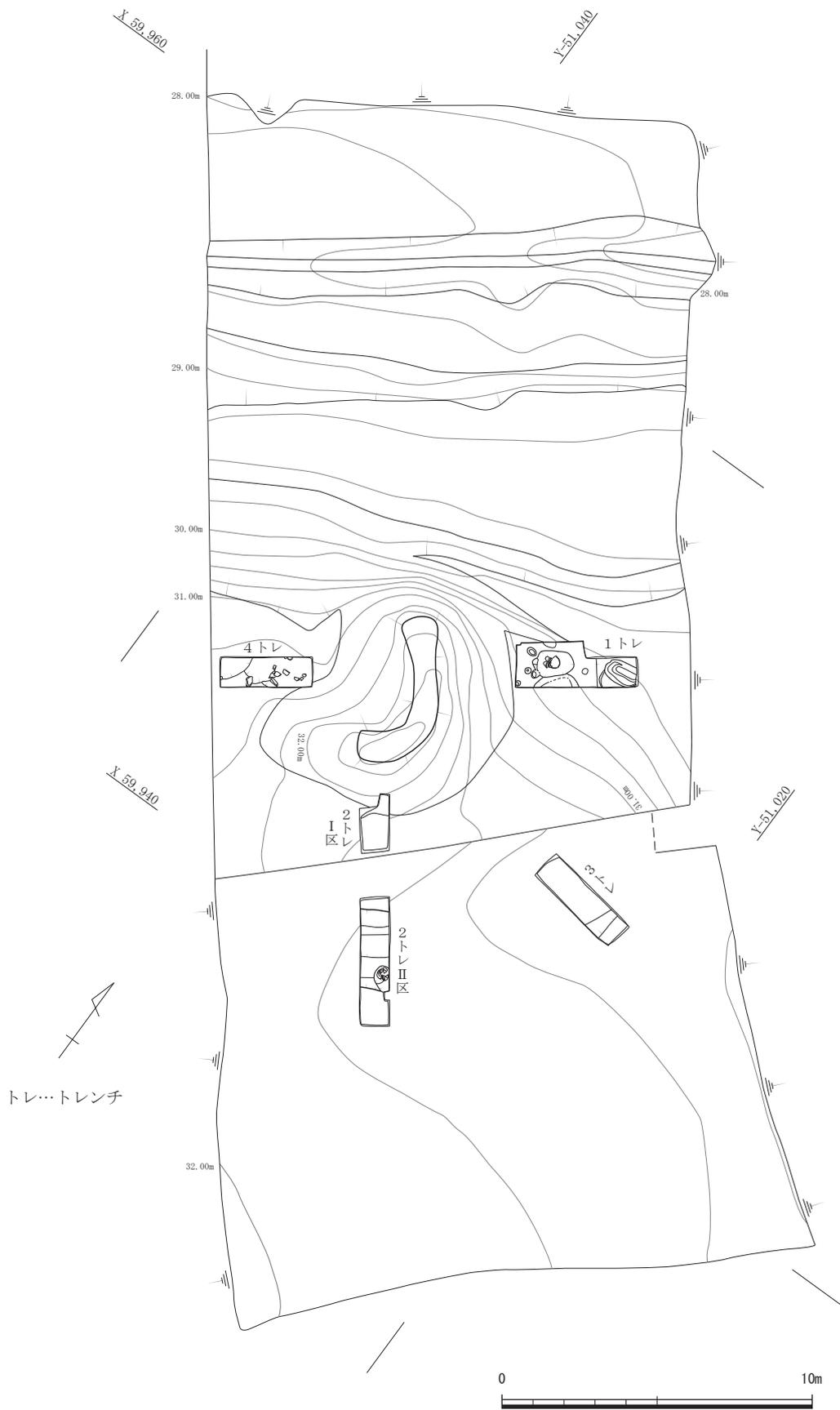
4. 2トレンチ全景（南東から）



5. 3トレンチ全景（東から）



6. 4トレンチ全景（南西から）



7. 遺構配置図 (1/200)

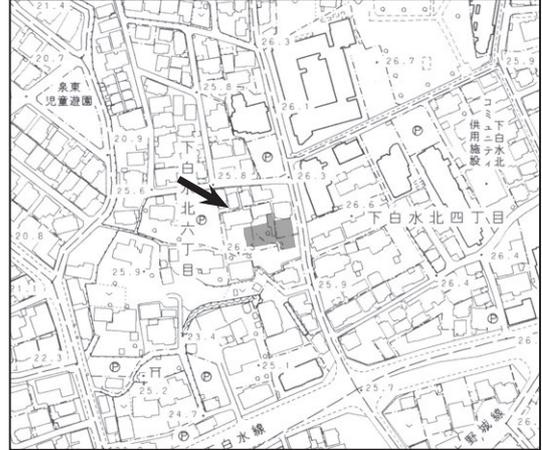
## 4 古水遺跡（6次調査）

所在地 春日市下白水北6丁目86番1他

調査面積 約530㎡

調査期間 2023年5月15日～8月31日

古水遺跡は、春日丘陵から谷を挟んで西側の段丘上にある。遺構検出面の標高は、25～26mで、これまで行われた周辺の調査では、弥生時代、奈良時代、鎌倉～江戸時代の遺構を確認している。また、古水遺跡は『筑前国続風土記』に記される、戦国時代末期頃の天浦城の推定地とされる。



1. 調査地の位置 (1/5000)

6次調査地は、遺跡の中央に位置し、天浦城の主閣推定地の南東にあたる。

今回の調査は、宅地造成工事に伴う緊急発掘調査として実施した。

### 遺構・遺物

遺構は、弥生時代中期の土坑3基と奈良時代の溝1条、奈良時代以降の掘立柱建物跡1棟と土坑1基、戦国末期～江戸時代の溝3条、井戸1基、現代の井戸3基、ピットを検出した。現代の井戸については調査の対象外とし掘削を行っていない。以下に主要な遺構の概要を時代順に記す。



2. 調査区全景（上が南）

弥生時代の遺構は、土坑を調査区の東部で2基、西部で1基確認した。いずれも平面形は長方形で、黒褐色粘質土の覆土には弥生土器が多量に含まれる。最も残存状況の良い東部の3号土坑は、長軸1.7m、短軸1m、深さ89cmで、断面形は逆台形状であった。遺構の時期は、いずれも弥生時代中期前半である。

奈良時代の4号溝は調査区東部で検出した。南北方向に延び、南側は造成で失われる。幅約1m、深さ20cmである。断面形は逆台形状で、底面には直径10cm程度の小穴が無数にあり凹凸状を呈す。埋没時期は8世紀後半である。この溝と1号掘立柱建物跡は重複する。1号掘立柱建物跡は、桁行2間×梁行1間である。柱穴は直径50cm前後を測り、底面が段掘りされる。土器はいずれも小片のため時期の特定に至らなかった。

戦国時代末期の溝は、調査地中央部の3号溝である。溝は幅4.7m、深さ2.4mで、断面形は「V」字状を呈すが、底面から約70cmの高さで両壁面に幅40cmのテラスを設ける。上層には多量の現代のゴミが堆積することから、昭和年間まで凹地状になっていたと推定できる。下層から土師器の皿の破片が出土した。

## 小 結

3号溝の規模や形態、明治21年の区割り図から、天浦城の堀の一部になると推定できた。また、溝が南の清水川に向かって延びるため、南東からの攻撃に備えた横堀であり、水が流れた痕跡がないことから、使用時は空堀だった可能性が高い。

今回の調査によって、天浦城の規模が当初想定していたより南に広がることを確認した。 (山崎)



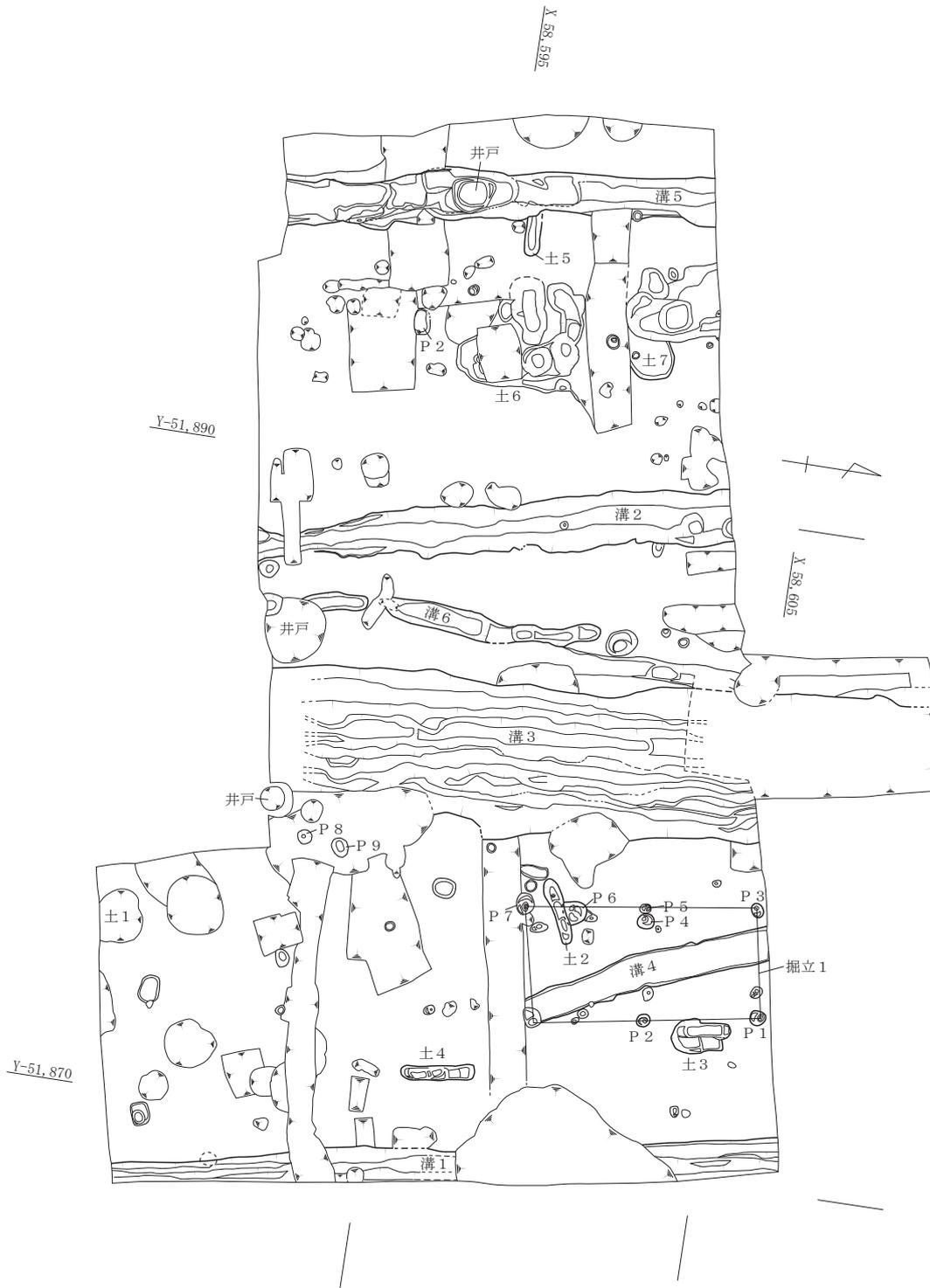
3. 3号溝土層（南から）



4. 4号溝、1号掘立柱建物跡（北から）



5. 5号溝（北から）



掘立…掘立柱建物  
 土…土坑



6. 遺構配置図 (1/200)

## 5 須玖坂本B遺跡（10次調査）

所在地 春日市岡本1丁目35番

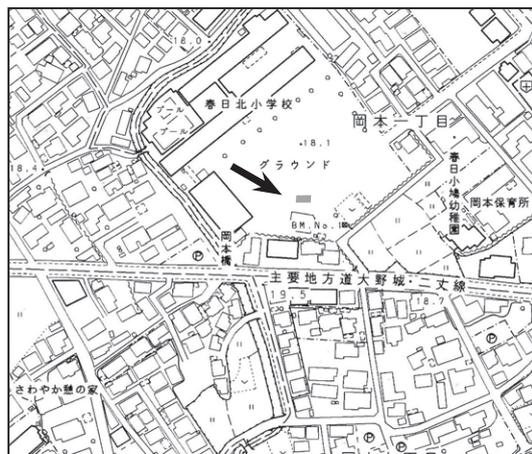
調査面積 48.05 m<sup>2</sup>

調査期間 2023年7月21日～8月22日

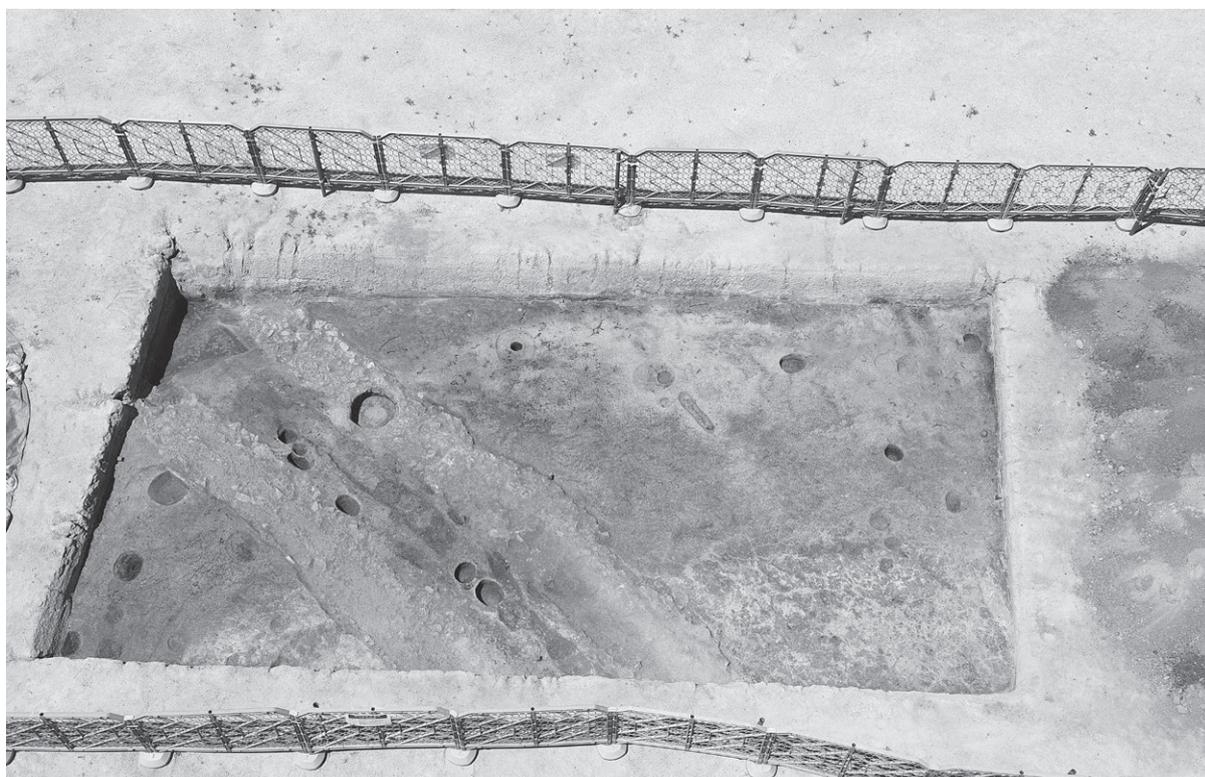
須玖坂本B遺跡は、須玖岡本遺跡の北側に所在し、現在は春日北小学校になっている。小学校建築前の造成を観察した鏡山猛氏によれば、竪穴建物跡や大溝が存在すると言う。

今までの調査で弥生時代を中心とする集落跡が確認され、南端部では幅4～5mの直線的な溝、西部や南部には青銅器工房跡と考えられる遺構を検出した。また、鋳型、銅矛中型、埴埴／取瓶などの多くの青銅器生産関連遺物や貨泉、漢式鏃、天秤権などの重要遺物が出土する。

令和3年12月、奈良文化財研究所の金田明大氏指導のもと、春日北小学校6年生の協力を得て地中レーダー探査を行い、遺構らしき反応が数カ所で見られた。これを受けて、令和4年から夏休み期間中に確認調査を行っている。なお、開発などに関連する記録保存ではないため、遺構は、完掘していないものがある。



1. 調査地の位置（1/5000）



2. 調査区全景（南から）

## 遺構・遺物

発掘調査は、令和3年度の地中レーダー探査で掘立柱建物跡の柱穴らしき反応があったグラウンド南側を対象にした。令和4年度には同様の理由で9次調査を行ったが、レーダー探査の解析結果の誤差のためか掘立柱建物の柱穴は確認できなかった。このため10次調査は、9次調査に接する形で南北5m×東西10m調査区を設定した。

なお、本来の地形は南から北へと緩やかに下がるが、過去の調査成果から当遺跡の南部は100cm近く削平されたことが分かる。また、当地は小学校に関連する埋設物などが想定されたため、遺構の残存状況は悪いことが予想された。

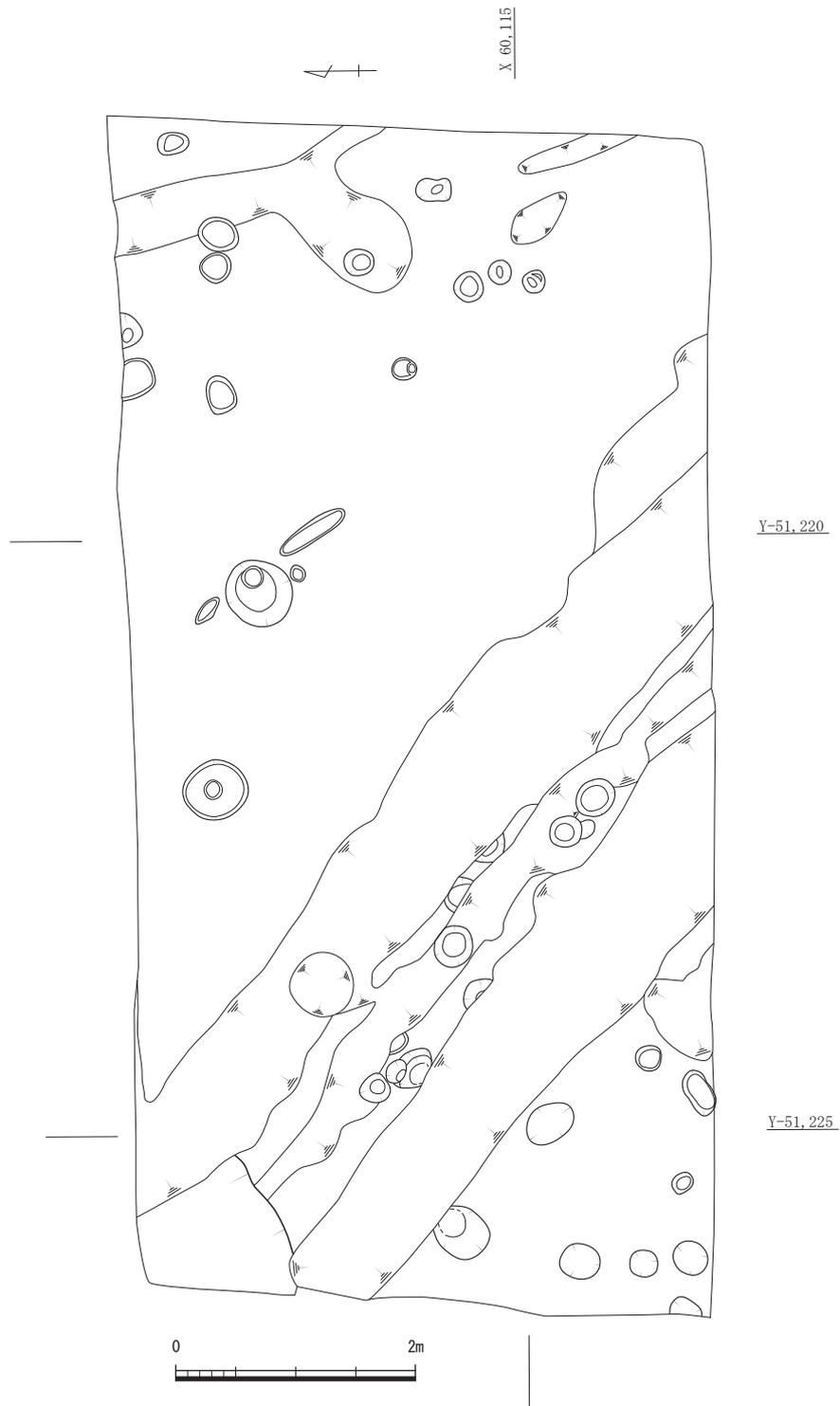
重機を使用し表土などを除去したところ、地表下30～40cm前後で弥生時代のピットを検出した。調査区北西隅部で検出した掘り込みは、9次調査の大部分を占めた小学校造成前まで使用された溝の続きである。この他にも調査区内には、碎石が混じる攪乱溝が数条見られ、これによって破壊されるピットが多い。ピットの中には掘立柱建物の柱穴と考えられる大型のピットがあるが、深さ数cmであり、かなり削平を受けていることは間違いない。



3. 調査区全景（東から）

## 小 結

今回の調査では、地表下40cm前後で遺構を検出した。弥生時代の遺構は、概ね黒褐色の埋土で、弥生時代中期の土器が出るが、小片のため時期の確定は難しい。なお、調査区東部の浅いピット状の遺構から銅滓が出土した。地中レーダー探査でみられた建物跡は検出できなかったため、反応は他の要因を考え、次年度以降は遺構の残りの良いグラウンド北・中部などの調査を検討したい。（井上）



6. 遺構配置図 (1/60)

## 6 平若A遺跡（7次調査）

所在地 春日市弥生2丁目18番、19番、28番

調査面積 1,076 m<sup>2</sup>

調査期間 2023年7月24日～2024年3月29日

平若A遺跡は春日丘陵中央部の複雑に分岐した小丘陵上に立地し、標高は39m前後を測る。これまでの調査により竪穴建物跡を中心とする建物群や甕棺墓など、弥生時代から古墳時代にかけての集落や墓地に関する遺構が確認されている。須玖遺跡群の一角をなす遺跡であり、集落遺構では石製鋳型など青銅器生産に関わる注目すべき遺物も出土している。

今回実施した7次調査地点は、東西方向に延びる小丘陵の南斜面に位置し、調査区の標高は最も高い所が35m前後で、丘陵裾部との比高差は約8mを測る。周辺では本調査地点の北西約80mに位置する1次・2次調査において、弥生時代前期と中期の甕棺墓や古墳時代の円墳などが確認され、3次調査で弥生時代後期以降の竪穴建物跡などが確認されている。

今回の調査は、これまで森林であった当地に宅地造成工事が計画されたため、実施した緊急発掘調査である。

### 遺構・遺物

7次調査では、竪穴建物跡7軒、掘立柱建物跡2棟以上、土坑7基（内1基が井戸）、溝5条、ピット多数、弥生時代中期から古墳時代にかけての遺物を包含する堆積層などを確認したが、造成前に実施された伐採・抜根により破壊された遺構も多い。

調査区中央から西部にかけて検出した竪穴建物跡は、いずれも弥生時代後期以降のものと考えられ、平面形が方形や隅丸方形を呈する。調査区中央部の1号竪穴建物跡は約4.1m×3.5m以上の長方形を呈し、中央やや西寄りに浅い炉跡が認められる。主柱穴は2個で、



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査地東半部全景 (西から)



3. 調査地東半部全景 (北西から)



4. 調査地西半部全景 (南西から)

3辺に細い壁溝が巡る。2号竪穴建物跡は1号竪穴建物跡の北側に並んで検出した。大部分が伐採時の攪乱で破壊されているが、床面直上から5世紀代の土師器が出土しており、古墳時代の住居跡であることが分かる。3～7号竪穴建物跡は1・2号竪穴建物跡より一段高い調査区西部に密集して検出した。斜面下位の部分が失われているため、正確な規模・形状は詳らかでないが、出土遺物から、いずれも弥生時代後期の所産と見られる。3号竪穴建物跡の上面から出土した青銅製の鋤先が注目される。



5. 1号竪穴建物跡（南西から）

1号土坑（井戸）は平面形が直径約1.5mの円形を呈する素掘りのものである。検出面からの深さが4m以上に及ぶため、人力での完掘は不可能であった。2号土坑も直径約1.5mの円形を呈するが、深さは約1mである。1号土坑（井戸）と2号土坑の上層からは、弥生時代後期を主体とする多量の遺物が出土した。特に2号土坑からは、広形銅戈の鋳型や埴埴／取瓶、銅矛の中型など複数の青銅器生産関連遺物が出土しており注目される。



6. 2号土坑遺物出土状況

多数検出したピットの中には、規模が大きく柱痕が認められるものもあり、少なくとも4棟以上の掘立柱建物の存在が予想される。

調査区全体に堆積する遺物包含層は、弥生時代中期から後期にかけての遺物を混在して包含する。遺構の検出状況から包含層の堆積前や堆積後、堆積過程それぞれの時期に遺構が掘り込まれていることを確認した。また、調査区下段の包含層からは、広形銅矛の鋳型が出土している。



7. 広形銅戈鋳型出土状況

## 小 結

本調査地点は、検出した遺構や出土遺物から弥生時代後期を主体とした集落の一部と考えられ、弥生時代中期以降に丘陵斜面を階段状に造成し、継続的に竪穴建物や掘立柱建物が建てられていたことが想定される。明確な工房跡は確認できなかったが、青銅器生産関連遺物も多く出土していることから、当地上位の丘陵上及び周辺で青銅器生産を行っていたことは間違いのないものと考えられる。 （吉田）



8. 遺構配置図 (1/250)

## 7 野藤遺跡（9次調査）

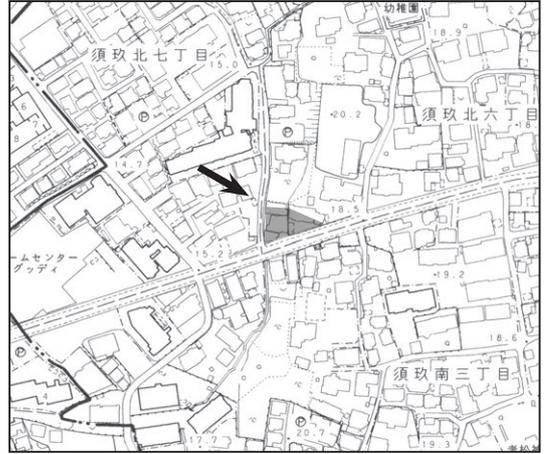
所在地 福岡県春日市須玖北6丁目75番地

調査面積 451 m<sup>2</sup>

調査期間 2023年9月1日～2024年2月16日

野藤遺跡は春日丘陵西側の中位段丘に立地する遺跡である。対象地は野藤遺跡の南西端にあたり、遺構面の標高は東端で約18m、西端で約14mと西に向かう傾斜地に存在する。周辺では御陵遺跡や野藤遺跡、弥永原遺跡（福岡市）等で、弥生時代から古墳時代初頭の集落や墓地、青銅器鑄造関連遺物が見つかり、古墳時代になると野藤遺跡で前方後円墳が確認されている。

今回の調査は、県道長浜太宰府線延伸のための緊急発掘調査である。

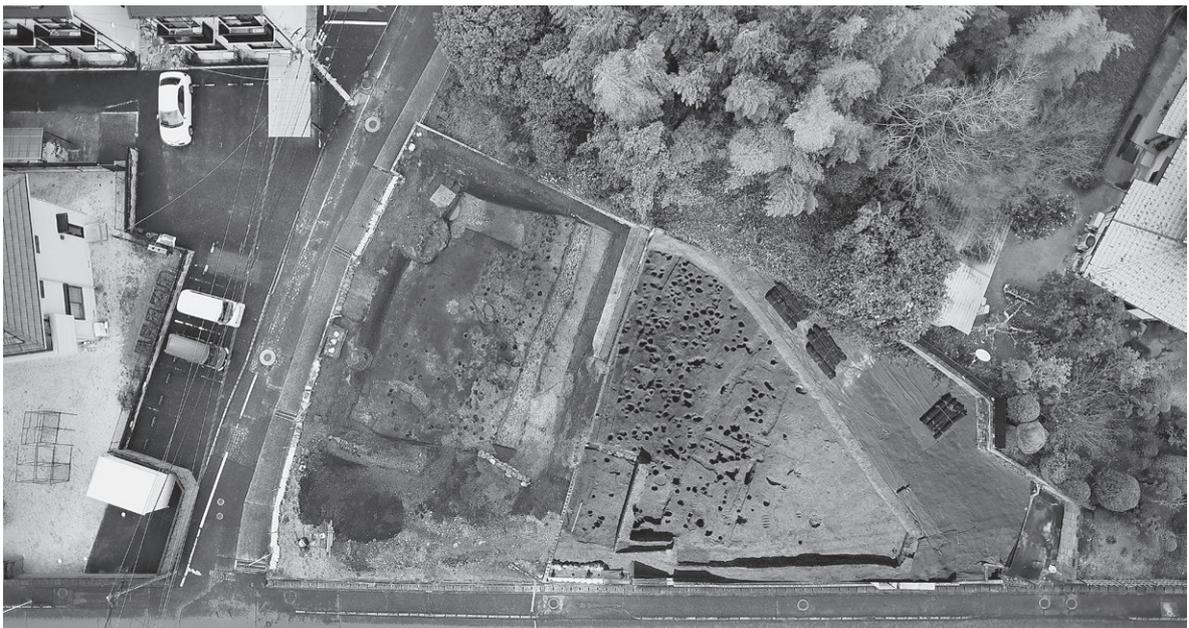


1. 調査地の位置 (1/5000)

### 遺構・遺物

調査区は、対象地の中央に擁壁があったため、擁壁を挟んで東側上段を1区、西側下段のうち北側2/3を2区、残る1/3を3区として設定した。1区の東半分は後世の造成のため削平されており、遺構は西部1/2以西に残存していた。発掘調査の結果、弥生時代後期の溝1条と、古墳時代以降の竪穴建物跡1軒、江戸時代以降の井戸1基と溝2条、弥生時代から江戸時代のピットを多数検出している。以下に主要な遺構の概要を述べる。

3号溝は2区の西部で検出した。南北方向に延びる溝で、幅は1.5m前後、断面形は逆台形を呈し、



2. 調査区全景（上が北）

深さは60 cmである。溝の南部には、東側丘陵部から白黄～淡橙褐色の土がまとまって流れ込んでいた。白黄色土の層より上層は、暗褐色から黒褐色粘質土で微細な橙褐色粘質土のブロックが含まれるのに対し、下層は灰褐色粘質土でややシルト質で、最下層には白色粘土ブロックが混じる。遺物は上層から弥生時代中期前半から古墳時代初頭の弥生土器、土師器、鋳型片等と7世紀代の須恵器が出土した。下層からは、弥生時代中期後半から後期の土器が出土している。特筆すべき遺物として石製の青銅器鋳型が1点出土した。

1号竪穴建物跡は2区南東で検出した。先行する3号溝と重複する。上面は後世の削平や攪乱により大部分が失われており、北壁と西壁の壁溝のみ残存する。復元される建物の規模は、南北2.5 m以上、東西方向2.1 m以上である。壁溝の幅は10 cm、深さ5 cm前後で、覆土は暗茶褐色粘質土であった。壁溝の覆土からは、土師器と須恵器片を確認したが、時期を判断できるものはない。

調査区内では多数のピットを確認しているが、1区南西部の調査区際で検出したP81からは、弥生時代中期後半の土器とともに、ガラス製品を製作するための掛堰を1点確認した。また、P132からは、砥石に転用された石製鋳型に伴い弥生時代後期前半の甕の底部が出土している。1号竪穴建物に伴うかは不明である。

この他、3号溝と重複関係にあるP133からは鉄器1点が出土している。3号溝の東西には、弥生時代中期後半から古墳時代初頭の遺物を多く含む黒褐色土と平安時代以降の遺物を含む茶褐色土が堆積していた。このうち調査区西端の黒褐色粘質土中から広形銅戈の鋳型と埴塙／取瓶片を確認している。

## 小 結

このような状況から、3号溝以東の丘陵部に弥生時代中期後半以降に集落が展開していた可能性が高いといえよう。また、特筆すべきは、埴塙／取瓶や複数の青銅器鋳型が見つかった点である。現地での青銅器製作を示す埴塙／取瓶やガラスの掛堰が本調査地で見つかったことから、過去に指摘された弥生時代の青銅器工房跡等が当地付近に存在する蓋然性が高まった。(山崎)



3. 3区調査区全景（東から）



4. 3号溝土層（北から）



5. 表土剥ぎ時包含層鋳型出土状況



土…土坑  
 井…井戸  
 竪…竪穴建物跡  
 風…風倒木痕

6. 遺構配置図 (1/150)

## 8 天神山水城跡 (16 次調査)

所在地 春日市天神山1丁目207番他

調査面積 1,257 m<sup>2</sup>

調査期間 2023年9月4日～11月15日

天神山水城跡は、水城跡（大水城）の西側丘陵の谷部に築かれた水城群の一つで、東西方向に延びる土塁（東西土塁）と、この土塁の西側に連続する自然丘陵（自然丘陵部）、自然丘陵から南側へ延びる南北方向の土塁線の一部が史跡指定されている。現在、東西土塁は長さ約140 m残存する。

今回調査した16次調査地点は自然丘陵部から南側へ延びる南北方向の土塁線である。これまでの周辺における確認調査等により、南北方向に細長く台状に高まりが残っていると判断され、土塁線として復元できることから、令和3年3月に追加指定された。同地の史跡整備に先立ち、土塁線の残存状況等、基礎資料を得るために発掘調査を行った。

### 遺 構

調査は対象地内に土塁線の横断面となる方向に5カ所、縦断面に3カ所、幅約1 mのトレンチを設定し、積み土の有無を確認した。1・2トレンチは土塁線の横断面で、現況においても西側隣地との現況地表面の高低差が約2 mある。1トレンチの東側では現況地表面より深さ約30 cmで地山に達した。トレンチの土層観察によると幾度か重機で掘削され、ごみを含む土で整地した痕跡がみられ、トレンチの西側は深さ約1 mである。2トレンチの東側では現地表面より深さ約50 cmで地山に達し、トレンチ内の土層観察によると、大きく2回、整地されていることがわかるが、整地層は現代のごみを含む。トレンチの西側は整地層もなく、約1.8 mの深さがある攪乱で、鉄筋やプラスチックごみが埋められていた。この攪乱の東側には地山面には重機による掘削の痕跡がみられた。1・2トレンチの東側延長線上に設定した3・4トレンチでは、深さ約30 cmで地山に達した。地山面からは幅60～



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査区南部全景 (北から)



3. 調査区北東部全景 (西から)

65 cm、深さ約 30 cmの溝を 2 条検出した。2 条の溝は平行し、大きさと方向が同じであることから同時期のものと考えられる。

5 トレンチは土塁線の縦断面で、深さ約 30 cmで地山に達した。5 トレンチの中央には直径約 3 m、深さ 1.5 mの攪乱があり、こちらも現代のごみが埋められていた。また、幅約 60 cm、深さ 30～40 cmの溝を 3 条検出した。3・4 トレンチで検出した溝と同規模である。

6 トレンチは対象地の北東隅に設定した。現地表面から深さ約 30 cmで、直径 35 cm前後のピットを 3 カ所検出し、このピットは現代の小屋等の柱穴と考えられる。地山面には深さ約 67 cmで達し、3・4・5 トレンチで検出した溝と同様の遺構を確認した。また、地山の色調が他地点とやや異なっていたため、人為的な堆積の可能性も考え、現地表面から約 1.5 mの深さまで掘削し土層断面を精査した結果、風化の度合いによる違いであると考えられた。

7 トレンチは 5 トレンチの延長線上に設定した。深さ約 30 cmで地山に達したが、北側は攪乱により深さ約 73 cmでコンクリートの基礎に達した。トレンチの中程では東西方向に延びる幅 80 cm、深さ 50 cm 方形の攪乱があり、北側の掘り込みのみ石積をしている。攪乱は壁も床面も赤変しており、何らかの焼成をした痕跡と考えられる。

8 トレンチは土塁線の横断面で、深さ約 40 cmで地山面に達した。トレンチの中央部から西側は 2 カ所、大きな攪乱がありコンクリート基礎を確認した。東側では 5 トレンチから続く溝が 5 条検出された。8 トレンチの中央部で、深さ約 35 cmで明褐色粘質土の堆積が一部にみられた。土塁の積み土の可能性を念頭に置きながら掘り下げたが、下層からピット状の遺構を 2 基、確認した。ピット状の遺構は幅約 50 cm、深さ約 30 cm、遺構間の距離は約 1.2 mである。遺構の形状からすると 8 トレンチの東側で確認した溝と同規模、同間隔であることから、同様の溝であるといえる。

## 小 結

調査の結果、宅地造成や畑作にともなう攪乱が多く、明確な土塁の積み土は確認できなかった。また、旧表土が確認できていないことから、積み土は削平されたか、地形を削って急斜面を形成した可能性も考えられる。いずれにせよ、旧地形や確認調査の状況から、南側の丘陵部から馬の背状に延びる小高い部分を利用して防衛線を築いたことが想定される。

(森井)



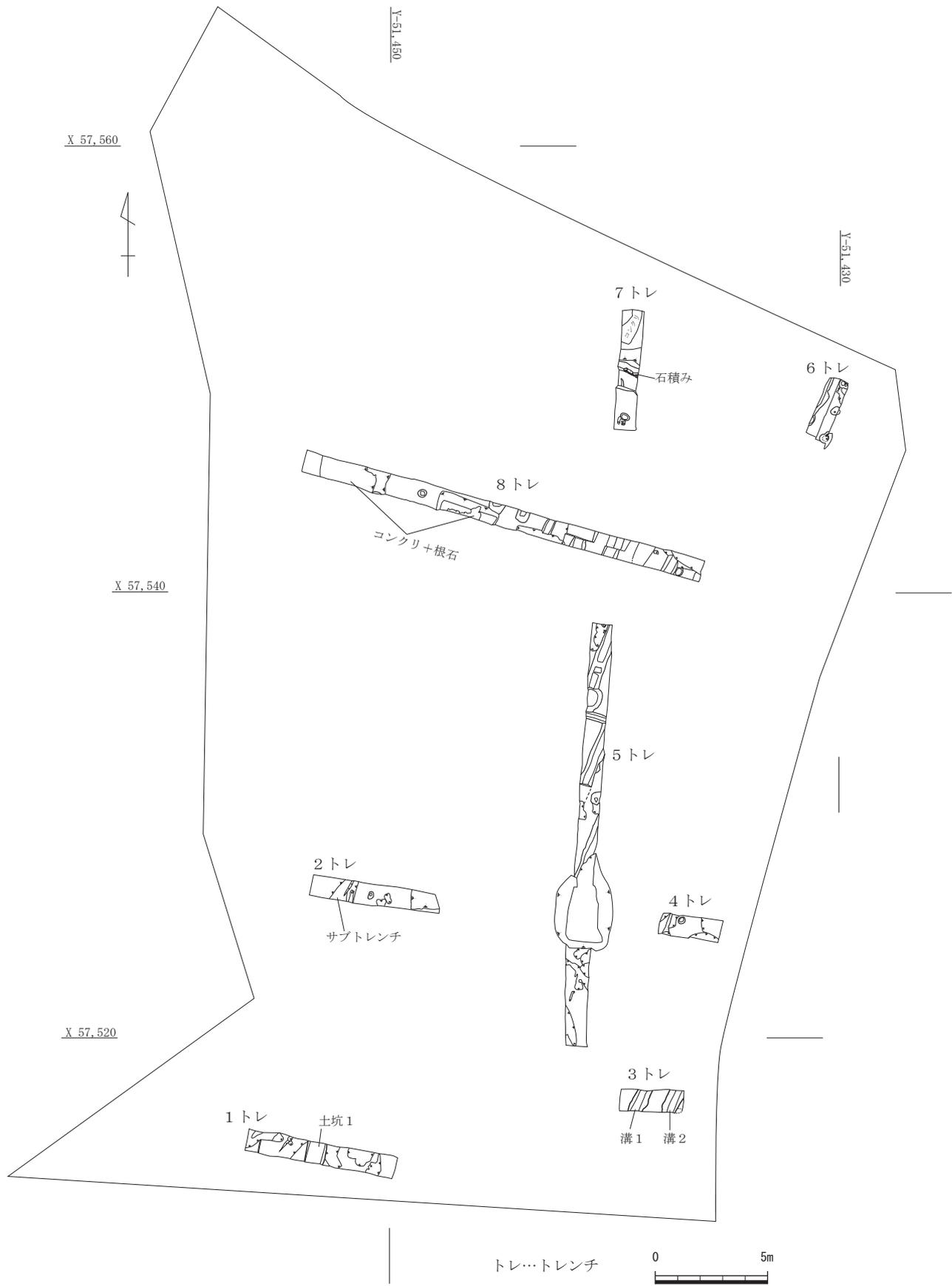
4.1 トレンチ北壁土層（南から）



5.2 トレンチ（西から）



6.7 トレンチ（南から）



7. 遺構配置図 (1/250)

## 9 須玖岡本遺跡岡本地区（28次調査）

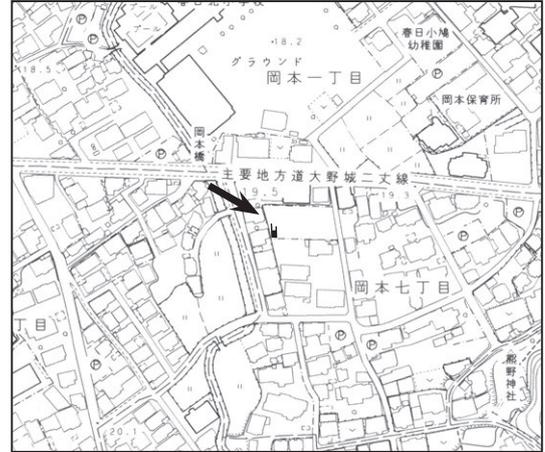
所在地 春日市岡本7丁目45番

調査面積 26.3 m<sup>2</sup>

調査期間 2023年12月11日～2024年3月18日

対象地一帯は、王族墓エリアとされるように、弥生時代中・後期の首長層の墳墓が分布し、高い比率で副葬品が出土する。当該地は、平成26・27年度に行った20次調査の南西部にあり、北東部で検出した20次調査4号甕棺墓には、銅剣と青銅製把頭飾が副葬されていた。28次調査は、20次調査で2号甕棺墓とした墓坑の周辺に調査区を設定した。甕棺墓の西側と南側には、ブロック塀、直上には切り株がある。これらは、遺構などに影響を与えている可能性があり、同時に史跡の本質的価値を損なっていることから、整備時には、ブロック塀を除去し、地形の復元などを行う必要がある。

以上のことから今後の整備を見据えるに当たっては、ブロック塀の除去が遺構に与える影響や切り株が遺構に与えている影響を把握することは不可欠であり、甕棺墓の調査を実施し、その影響の有無を確認する必要があった。



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査地全景（上が西）

## 遺構・遺物

掘削は人力により行った。南側ブロック塀と直行するように調査区を設定し、20次調査の2号甕棺墓の墓坑を確認した。墓坑の規模は3.75×2.2m程度。調査は墓坑の東半部から掘削した。南部の攪乱坑をさらえ、数センチ掘り下げたところ甕棺の胴部突帯を検出した。突帯の断面形は発達していない台形で、中央北寄りの攪乱を掘削したところ上甕と下甕の合わせ口を確認した。墓坑の大きさや残存状況から考えると甕棺は水平に近い状態で埋置されると考えられ、下甕底部の挿入部もさほど掘り込まれていないと推察できる。これらから推測すれば中期後半でも古い時期であろう。合わせ口から内部を観察すると、水が口縁内側まで確認できたため、甕棺は割れ、内部には土砂や湧水が流入したことは明らかである。

他にも、調査区西壁際では土坑墓の足元掘り込み部を、調査区の北部では歴史時代と考えられる大小のピットを検出した。当該地は、甕棺墓の残存状況から弥生時代の遺構は少なくとも1m以上は削平されると判断され、歴史時代以降に造成が行われたと考える方が自然であろう。

## 小 結

28次調査では、弥生時代の遺構としては甕棺墓と土坑墓を確認した。何れもブロック塀の影響は受けていると考えられ、それらの撤去時には破壊を伴う可能性がある。また、甕棺内部は水で満たされるため、乾燥と湿潤を繰り返していることが想定できる。20次調査4号甕棺墓は金属探査によって青銅器の副葬が考えられ、乾燥と湿潤を繰り返す環境は青銅器にとって劣悪と判断されたため、現地保存を断念し翌年度に発掘調査を行った。当該甕棺墓についても、慎重に検討を行い、関係機関と協議の上、継続調査を検討したい。

(井上)



3. 甕棺墓検出状況（東から）



4. 合わせ口（西から）



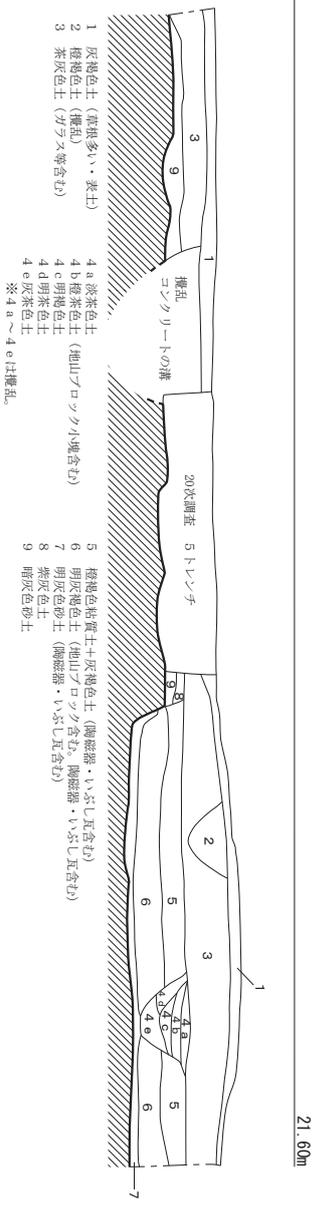
5. 1号土坑墓（西から）

X 60,030

X 60,025



Y-51, 225



6. 遺構配置図 (1/50)



●…柱痕

## 10 古水遺跡（7次調査）

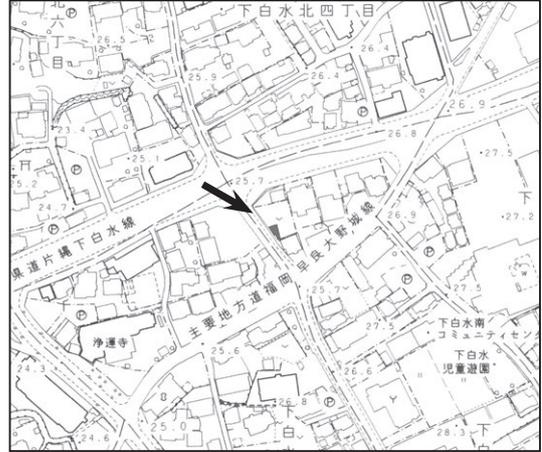
所在地 春日市下白水南3丁目23番2

調査面積 53.1 m<sup>2</sup>

調査期間 2023年12月20日～2024年1月17日

古水遺跡は、春日丘陵西側の台地上に立地する遺跡で、調査地の遺構面の標高は、26 m前後を測る。当遺跡は、2022年までに5次にわたる調査が行われており、弥生時代から中世にかけての集落跡などが確認されている。今回の調査地は、古水遺跡の南東端に位置する。東側に隣接する3次調査では、弥生時代の溝状遺構や、古代の土坑等を検出している。

今回の調査は、宅地造成に伴う緊急発掘調査である。



1. 調査地の位置 (1/5000)

### 遺構・遺物

重機で表土除去後、地表から約40cm程度の深さで遺構面に達した。調査区全体には近現代の攪乱が多かったが、竪穴建物跡1棟、土坑1基、ピット1基を検出した。遺物は、弥生土器、須恵器、石器などが出土した。



2. 調査地全景（北から）

1号竪穴建物跡は、調査区北西隅で検出した。平面プランは方形で、長軸3m、短軸1.8m以上で北半部が調査区外に延びる。床面までの深さは15cmであり残存状況はよくない。柱穴と考えられるピットは未検出である。黒褐色土の覆土や床面からは弥生土器が出土したが、何れも小片で明確な時期の特定には至っていない。しかし、1号土坑と同様な覆土であることから同時期の可能性がある。



3. 1号竪穴建物跡（北から）

1号土坑は、調査区北部で検出した。検出時は、竪穴建物跡と推測していたが、掘削段階で立ち上がりが緩やかであることや、下端の状況などから土坑と判断した。平面プランは隅丸方形で、長軸2.7m、短軸1.9m以上で調査区外に延びる。深さは約30cmである。上層の暗茶褐色土からは、弥生土器や須恵器の小片が出土し、下層の黒褐色土からは弥生時代後期前半～中頃の土器が出土した。

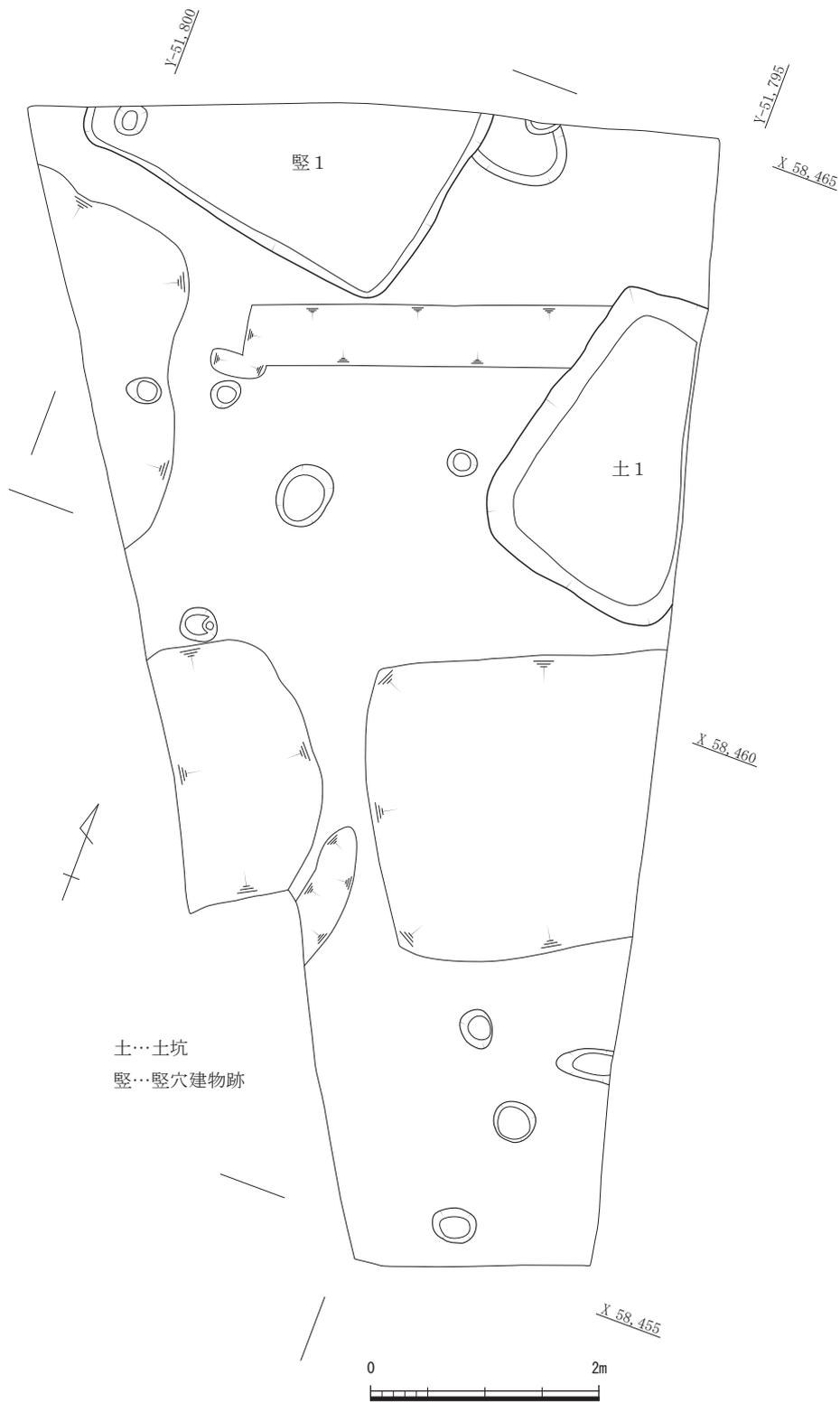


4. 1号土坑（北から）

## 小 結

調査地は、狭小で近現代の攪乱も多く、少ない情報ながらも、弥生時代後期を主体とした集落の一部を確認することができた。対象地の南側に位置する石尺遺跡では、同時期頃の竪穴建物跡が複数確認されていることから、石尺遺跡の集落がさらに北側に広がる状況を確認することができた。詳細については、今後の更なる調査の進展に期待したい。

(藤)



5. 遺構配置図 (1/60)

## 11 須玖岡本遺跡岡本地区 (27次調査)

所在地 春日市岡本7丁目66番1の一部

調査面積 14㎡

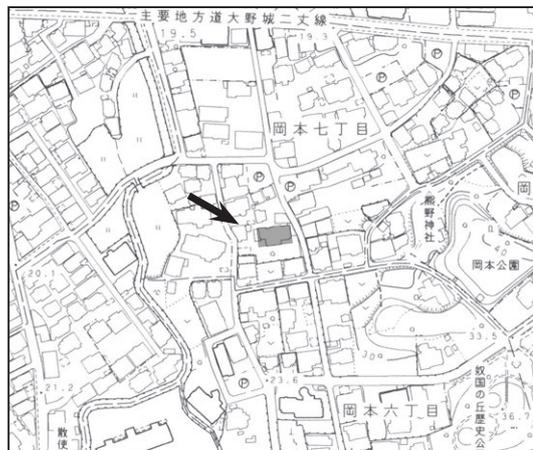
調査期間 2023年6月5日、7日

須玖岡本遺跡は、春日市北部にあり、春日丘陵の先端部に位置する。明治32(1889)年に奴国王墓が発見されて以降、度重なる発掘調査の成果から王族墓域、一般成員墓域、集落域、青銅器工房域などの様相が見えつつある。平成30年に策定した「史跡須玖岡本遺跡保存活用計画」に則り、現在は、地権者の協力を得ながら国指定史跡の追加指定を行い、遺跡の保護・活用を進めている。

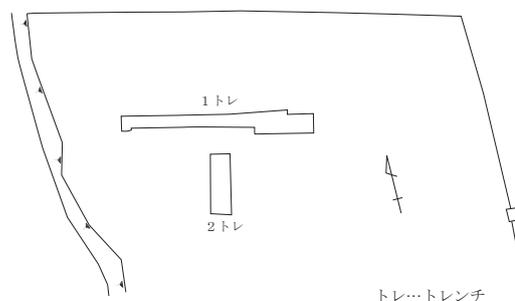
調査地は、王墓地点から70m南西に位置する。南に近接する須玖岡本遺跡岡本地区11次調査地では、土坑や溝状遺構などを検出している。今回の調査は、個人住宅建て替えに伴う試掘・確認調査である。調査は対象地の周辺状況から、慎重に調査を行う必要があるため、人力による掘削を中心に行い、場合によっては重機による掘削を行えるよう体制を整えて実施した。

対象地中央部に、東西方向に10×1mのトレンチ(1トレ)と、南北方向に3×1mのトレンチ(2トレ)を設定した。1日目は、人力によってトレンチ内の掘削を行った。1トレは、地表面から40cmの深さまで下げたところ、建物の基礎の一部やガラなどを含む層が堆積していた。2トレは、1トレと同様の深さまで下げたところ、建物の基礎であるコンクリートブロックの一部などを含む層が堆積していた。その後、1トレの一部を60cm掘削したが、層に変化はなく、地山や遺構面に到達しなかったことから、これ以上深くなることを想定し2日目に重機による掘削を行った。

2日目の重機による掘削で、1トレは、地表面から70cmで黄白褐色粘質土の地山面に到達した。トレンチ内のほとんどは後世の攪乱を受けていたが、トレンチ



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. トレンチ配置図



3. 1トレンチ中央部遺構検出面 (南から)

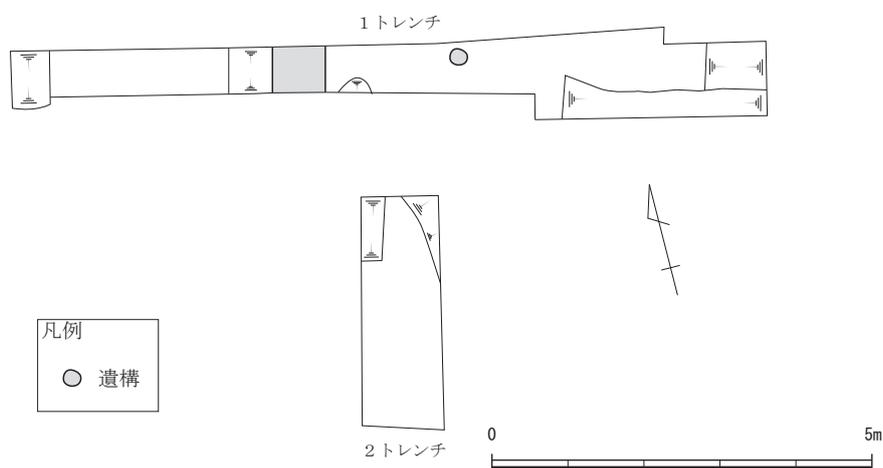
中央付近で、深さ 20 cm のピットを 1 基確認した。また、ピットの西側で埋土が暗黒褐色粘質土の遺構を検出したが、遺構の平面は 80 cm、深さが 5 cm と浅く、溝または土坑の一部と想定した。1 トレ内では遺物は確認できなかった。2 トレは、地表面から 60 cm で黄白褐色から灰褐色粘質土の地山面に到達した。建物の基礎であるコンクリートブロックが残るほか、トレンチ内のほとんどは後世の攪乱を受けており、遺構・遺物とも確認できなかった。



4. 2 トレンチ地山検出面（西から）

### 小 結

今回の調査地は、1 トレでピット 1 基と、溝または土坑の一部の可能性のある遺構を検出した。建物の基礎の残存状態や地山の観察から、全体的に削平を受けていることがわかった。開発者と協議の上、建物の基礎と遺構面の上に保護層を設け、遺構を地下に保存した状態で開発が行われた。（熊埜御堂）



5. 遺構検出状況略測図（1/100）

### Ⅲ 文化財普及啓発事業

#### 1 企画展示等

##### ① 発掘調査成果パネル展

令和4年度に実施した発掘調査の写真パネルを展示しました。

テーマ 「発掘された春日の遺跡」

会 期 4月22日(土)～6月25日(日)

会 場 奴国の丘歴史資料館 エントランス

入館者 2,875人

関連講演会

文化財課職員による令和4年度発掘調査の概要報告を郷土史研究会と合同で実施しました。

日 時 4月23日(日)

演 題 令和4年度発掘調査成果報告

会 場 奴国の丘歴史資料館 研修室

参加者 35人



発掘調査成果パネル展



トピック展

##### ② トピック展

令和4年度に市指定有形文化財に指定された「ウトグチ瓦窯跡出土の瓦」などを展示しました。

テーマ 「瓦から見る春日の歴史」

会 期 4月22日(土)～6月25日(日)

会 場 奴国の丘歴史資料館 特別展示室

入館者 2,875人



奴国の丘歴史公園絵画展準備風景

##### ③ 奴国の丘歴史公園絵画展

春日北中学校1年生が奴国の丘歴史公園にて行ったスケッチ大会での作品(149点)を、資料館で展示しました。展示作業は春日北中学校の美術部員と一緒に行いました。

日 時 令和5年7月19日(水)～7月30日(日)

会 場 奴国の丘歴史資料館 特別展示室

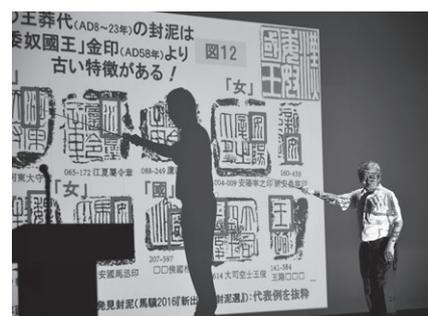
入館者 754人



考古企画展

#### ④ 考古企画展

テーマ 「わたしたちの須玖遺跡群」  
会 期 8月26日(土)～10月22日(日)  
会 場 奴国の丘歴史資料館 特別展示室  
入館者 5,917人  
関連講演会  
日 時 9月30日(土)  
演 題 国宝「漢倭奴國王」金印の考古学  
講 師 石川日出志氏(明治大学教授)  
会 場 ふれあい文化センターサンホール  
参加者 118人



考古企画展関連講演会



民俗企画展

#### ⑤ 民俗企画展

テーマ 「ことわざと暮らしの道具」  
会 期 1月20日(土)～3月3日(日)  
会 場 奴国の丘歴史資料館 特別展示室  
入館者 4,568人



やきものづくりでの展示案内

## 2 やきものづくり教室

5、6、9、10、12、2月の第2土曜日にウトグチのぼり窯体験広場で午前、午後各1回やきものづくり教室を実施しました。参加者(年12回実施) 合計95人



奴国ラボ

## 3 奴国ラボ

春日北中学校の1、2年生から参加者を募って実施しました。地域の歴史について学び、夏休み期間中に春日北小学校での発掘体験(須玖坂本B遺跡10次調査)をしたほか、学んだ成果を元に令和5年度考古企画展の一角で弥生時代の遺物の展示を行いました。

日 時 6、7月の第1土曜日、8月3日(木) 8月6日(日)  
会 場 奴国の丘歴史資料館研修室、春日北小学校校庭  
参加者 4名



ジュニアガイド養成講座

## 4 ジュニアガイド養成講座

8月3日、16日、23日、9月9日、23日の計5日間で、市内小学生を対象にジュニアガイドを募集し、奴国の丘フェスタの

バックヤードツアーガイドを実施しました。

参加者 5人

## 5 ブラかすが歴史散歩

第1回 須玖岡本遺跡巡り

日 時 10月21日(土)

午前9時半～正午

参加者 15人

第2回 春日市の日本遺産巡り(小水城巡り)

日 時 11月25日(土)

午前9時半～正午

参加者 12人

## 6 弥生の里かすが奴国の丘フェスタ

奴国の中心地である須玖岡本遺跡を始めとした市内の史跡地等から出土した遺物を収集、保存、展示している奴国の丘歴史資料館を中心にイベントを行い、重要な遺跡や遺物の存在を、市民を中心に広く発信しました。

日 時 9月23日(土)

会 場 奴国の丘歴史資料館、歴史公園

参加者 約2,600人

## 7 学習支援活動

小中学校の授業や生涯学習活動の一環として資料館の展示見学や遺跡見学、体験学習の説明・指導を実施しました。

市内学校 33件 (3,175人)

市外学校 3件 (295人)

市内中学校職場体験 3件 (12人)

一般団体 52件 (909人)

## 8 ワークショップ

「奴国の鑄造を考える」をテーマに、高校生、大学生を対象としたワークショップを開催しました。ワークショップでは、青銅器鑄造に関する講座の他、福岡教育大学と連携し、宮田洋平氏の指導のもと、石製鑄型の制作から青銅器づくりに取り組みました。

日 時 5～3月にかけての第3土曜日を中心に日程追加を含めて全16回



須玖岡本遺跡巡り



小水城巡り



奴国の丘フェスタ



職場体験

参加者 高校生 12人  
大学生 6人

## 9 歴史講座

「奴国の鑄造を考える」ワークショップに合わせて、全4回の歴史講座を実施しました。

### 第1回 「鑄造とは何か」

日時 6月17日(土)  
14時～15時

講師 宮田洋平氏(福岡教育大学)

参加者 56人

### 第2回 「出土品から見た弥生時代の鑄造」

日時 7月15日(土)  
14時～15時

講師 井上義也氏(春日市協働推進部文化財課)

参加者 58人

### 第3回 「青銅器はどう使われたか」

日時 9月2日(土)  
14時～15時

講師 武末純一氏(奴国の丘歴史資料館名誉館長)

参加者 56人

### 第4回 「弥生時代の青銅器生産」

日時 10月15日(土)  
14時～15時

講師 田尻義了氏(九州大学)

参加者 48人



ワークショップでの鑄造の様子



歴史講座



日の出小アンビシャス勾玉づくり



奴国の丘サポーター定例会

## 10 出前講座等

自治会等が開催するイベントや市内にある学校の授業への支援を行いました。

市内学校 10件

自治会等 8件

## 11 ボランティア組織

春日市奴国の丘歴史資料館および隣接する須玖岡本遺跡の見学者に案内・解説を行う奴国の丘サポーターと、ウトグチのぼり窯体験広場で実施するやきものづくり教室を支援するやきものボランティアが

組織されています。

奴国の丘サポーター 16人

やきものボランティア 13人

## 12 貸出資料

考古資料等 2件

写真資料 16件

## 13 入館者数

春日市奴国の丘歴史資料館 31,383人

ウトグチ瓦窯展示館 619人

## 14 利用案内

**春日市奴国の丘歴史資料館**（春日市岡本3丁目57番）

開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日 毎月第3火曜日（祝日に当たる場合はその翌日）

年末年始（12月28日～1月4日）

入館料 無料（特別展では有料の場合もあり）

駐車場 22台駐車可（無料）

交通アクセス JR鹿児島本線 南福岡駅より徒歩20分

西鉄天神大牟田線 雑餉隈駅より徒歩24分

九州自動車道 太宰府インターより車で5.6km

春日市コミュニティバス

①桜ヶ丘線 奴国の丘歴史資料館前下車すぐ

②須玖線 岡本1丁目下車徒歩7分

**ウトグチ瓦窯展示館**（春日市白水ヶ丘1丁目4番）

開館時間 午前9時～午後4時30分

休館日 月曜日、祝日、第3火曜日、年末年始（12月28日～1月4日）

入館料 無料

駐車場 なし

交通アクセス JR鹿児島本線 春日駅

西鉄天神大牟田線 春日原駅

} より西鉄バス「池の下」下車徒歩5分

JR博多南線 博多南駅より徒歩15分

春日市コミュニティバス 上白水線「ウトグチ瓦窯展示館」下車徒歩2分

## IV 附編（調査・研究報告）

### 1 令和5年度須玖岡本遺跡確認調査（地中レーダー探査）

#### 確認調査の経緯と概要

奴国の中心部分として重要な須玖岡本遺跡については、平成29年度に史跡須玖岡本遺跡保存活用計画を策定し、遺跡の範囲内に「王墓エリア・王族墓エリア・青銅器工房エリア」の重点エリアを設け、優先的な史跡指定及び公有地化と活用・整備を行うこととしている。また、遺跡の学術的な調査・研究を推進していくために令和2年度以降、毎年2～3箇所ではレーダー探査を実施し、遺跡内に埋蔵される遺構の状況把握を行うとともに、探査成果を基とする確認調査（発掘調査）により遺構の具体的な内容確認に努め、併せてレーダー探査に係る当地での有効性等の検証を行っている。

令和5年度については、今後の史跡整備・活用に際して、核心となる王墓地点において墳丘墓の積み土や周溝等が残存する可能性、一般成員墓域の北端斜面部における土地利用の状況、これまで周辺が未調査であるため地下の状況予測が困難な遺跡東端部の遺構や土地利用状況の確認を目的として地中レーダー探査を行った。また、引き続き地中レーダー探査の成果を基に確認調査を実施し、遺構の性格の把握に努めた。

以下に令和5年度に実施した3件の地中レーダー探査及び、令和4年度の地中レーダー探査で副葬品を持つ可能性が高い甕棺墓と推定される箇所において実施した、金属探知機による金属製遺物確認の補足調査について概要を記す。

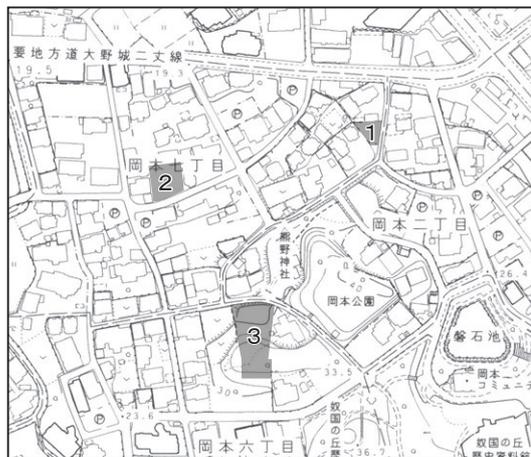
#### 調査1

所在地 春日市岡本7丁目5番地1

調査面積 371 m<sup>2</sup>

調査期間 2023年6月5日

調査地は須玖岡本遺跡盤石地区の東端部に位置する。ここから東側は地形が急落して盤石池を谷頭とする谷地形となり、今回の調査では遺跡境界部での土地利用の手掛かりを得ることが期待された。史跡指定前までは舗装された駐車場として利用されており、現地表面から概ね60cmの深さまで反射振幅の強い範囲が



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査1作業状況

検出され、傾斜面を造成した近現代の盛土が推定された。周辺地形も北側に傾斜しており、旧地表は北傾斜であったことが地中レーダー探査でも示された。

深度約 0.8m～1.2m の 1 箇所で甕棺墓の可能性のある局所的な反射パターンが検出されたが、ブロック擁壁沿いの位置にあることから擁壁基礎の可能性も大きく、また甕棺墓であれば攪乱を受けている可能性が高い。

## 調査 2

所在地 春日市岡本 7 丁目 35 番 1、35 番 2、36 番

調査面積 1,757 m<sup>2</sup>

調査期間 2023 年 6 月 5 日

調査地は須玖岡本遺跡岡本地区の中でも最も重要な部分である「王墓エリア」として史跡指定された区域で、昭和 4 年に京都帝国大学が実施した発掘調査地 D 地点を包摂する。

今回の調査では、単独の墳丘墓と想定される王墓の構造を示す墓坑や周溝、墳丘積土などの痕跡が残されている可能性の追求及び、昭和 4 年には撤去されていた「王墓の出土物を一時保管した煉瓦廓」の痕跡の有無確認を目的とした。

対象地の西部（王墓上石の原位置推定地点から北東約 9 m の位置）において、甕棺墓となんらかの墓坑と検討し得る反射パターンが 2 箇所に検出されたが、これまでの調査成果や近代以降の土地利用状況などから勘案すると、弥生時代の遺構である可能性は低いと推定される。今後の史跡整備計画に際しては、本探査結果を踏まえたトレンチ掘削による確認調査を令和 8 年度に実施する予定である。



3. 調査 2 作業状況

## 調査 3

所在地 春日市岡本 6 丁目 4 番 1、4 番 2

調査面積 1,612 m<sup>2</sup>

調査期間 2023 年 6 月 6 日

須玖岡本遺跡岡本山区の中心部で遺跡内の最高所に位置する。ここから北方は地形が急落するため福岡平野への見晴らしが良い立地である。これまでの周辺での調査成果から、熊野神社境内及び岡本公園から連続する一般成員墓群が広がることが推定されるが、このほか傾斜地に営まれた居住域の可能性も考慮され、土地利用の手掛かりを得ることが期待された。

当地でのレーダー探査では、探査区域の各所に深さ 1 m 以上まで続く強い反射反応が認められたが、これらは近現代の攪乱か埋設物による可能性が高い。また、北西隅付近の一段低い位置で帯状に反射振幅のやや強い範囲を検出したが、現況の地形に沿っていることから近現代の耕作による地業の反映と見



4. 調査 3 作業状況

られる。今回の探査範囲内に甕棺墓などの墓坑や住居跡と推察し得る反射パターンは検出されなかった。

#### 調査 4

所在地 春日市岡本7丁目45番

調査面積 約8㎡

調査期間 2023年6月6日

金属探知機による確認調査は、令和4年度に実施した地中レーダー探査において、探査範囲の南西隅に検出した反射振幅の強い箇所を実施した。既往のトレンチ調査結果を踏まえて検討した結果、この反射パターンは甕棺墓であることが確実視され、今回、この甕棺墓推定箇所において青銅器等の副葬品の有無を確認するため、金属探知機による金属製遺物の確認調査を実施した。

調査では、金属反応の中心点が調査地南西隅（フェンスとブロック塀の交点）からフェンス沿いに約1.5m、ブロック塀沿いに約1.0mの位置に検出された。深さは現地表面から約60cmの位置に金属製遺物が存在する可能性が高い。

従前の確認調査及び地中レーダー探査に加えて本探査結果を勘案し、今後の史跡整備計画を踏まえたトレンチ掘削による確認調査を令和6年度に実施する。 (吉田)



5. 金属探知機による測定状況

## 2 文化財保存活用地域計画と武末会

地域総がかりで作る「文化財保存活用地域計画」（以下、「地域計画」）の策定を、文化庁が各自治体に依頼した。目的は「歴史文化で魅力ある地域へ」である。地域の歴史や文化を、保存のみならず活用し、次世代に継承を図るものである。文化財は過去の人々の営み、人々の共同体の意識や生活の中で生まれ、伝えられ守られ、伝統となり、次世代に受けつながれていく。作られた歴史はプロの研究者や一部の人々のためではなく、すべての人々の財産である。

春日市も弥生時代を中心に重要な文化財を持つが、十分に活用されているとは言い難い。大都市近郊の中小都市という特徴から、人々の入れ替わりが激しく、多くの市民はその文化財の存在すら知らないというのが現状である。春日市の文化財をどう活用するか、よりよい計画にするために市当局や専門家だけでなく、そこに住む市民の目線も必要になってくる。武末純一氏が奴国の丘歴史資料館の名誉館長として2021年3月22日に赴任した。名誉館長は文化財保存に対し、行政主導の保存活動に単に参加するだけでなく、市民自ら新たに発見したことを研究し、どのように保存し活用するかという主体性を持った、参画の必要性を訴えてきた。この考えに賛同するいくつかの民間団体が集まり、春日市の文化財の在り方と地域計画を考える春日市民主体の「武末会」が、2022年2月に正式に発足した。武末会の名称は武末名誉館長の名前に由来する。当時参加を呼びかけたのは、春日市郷土史研究会、筑山会（現在は春日古文書会）、奴国の丘サポーターの会、春日ベース・ハウスの会、下白水歴史を学ぶ会、西村すみ子市議会議員の研究会であった。会への参加は原則個人参加とした。

武末会は地域計画の原案から、自分たちで考え調査し、対象を見出そうとするものであった。現在まで2か月に一度の定例会、4か月に一度の文化財課との合同会議を開き、2024年2月現在まで18回開催した。計画の原案と実施を考え、また実行した調査の報告を行った。さらには春日市の文化財、特に重要である須玖遺跡群を市民にどのように知ってもらおうかも話し合った。

地域計画には、全体のタイトルを「いにしへの王都とそなえ」とし、個別に表1の9件が候補として選定された。このうち3件（表1 A・B・G）は文化財課が担い、残りの6件は武末会が文化財課支援のもと自主的に調査することが決まった。調査には、市内すべての地域が入っており事実上の悉皆調査とした。ただしこれは候補であり、すべてがこの計画に採用されるものではない。しか

表1 文化財保存活用地域計画候補

	項目
A	福岡の原点—須玖遺跡群—
B	古代春日の守り
C	中世の春日—白水—
D	丘陵地春日—溜池と水路と自然—
E	春日神社と近世集落
F	春日と戦争—20世紀—
G	古墳と窯跡群
H	旧小倉村の江戸時代
I	旧須玖村の神社と天然記念物

A・B・Gの3件は文化財課調査  
それ以外は文化財課支援のもと武末会調査



写真1 武末会会議風景（奴国の丘歴史資料館）

し変化が激しい当市において、現状を調査するのは、『春日市史』以来である。当時の調査から30年以上を経過しており、新たな発見もあろうし、無くなったものもあろう、当時の記録と比較し記録に残すのは価値があると考えた。

2024年2月の段階でI旧須玖村の神社と天然記念物、F春日と戦争—20世紀—の調査が進められ、E春日神社と近世集落もすでに調査に取りかかっている。そのほかの項目も令和6年度中には、すべて取りかかる予定である。今回はそのうち、IとFの調査について概要を報告する。

調査の中で明らかになったことは、予想されてはいたが、地域の紐帯がゆるくなり、神社の祭礼など、伝統的な地域の活動が縮小していることだ。振り返ってみれば、戦後間もない昭和23年、春日市（当時春日村）の人口は9,655人、そのうち農業は3,375人。昭和27年には農業人口がほぼ同じで、人口は13,713人に増加。その後、昭和28年に春日町となり、昭和47年には春日市へ、現在人口は11万人を超え、急激に発展、都市化していった。福岡市のベッドタウン化したことに伴い、農業中心であった労働の形態も変わり、そのため神社を中心に村の行事を行うことがしだいに困難になっていった。

都市化が進み、新しい春日市民が大多数となると、古い伝統を知る人々が少なくなり、村の運営を担ってきた宮座も変化を余儀なくされ、その維持が難しくなっている。歴史はその土地に住む人によって、生み出され変化していく。その変化を記録することも大事であろう。私たち武末会は、春日市すべてを調べ、一つ一つを記録し、市民としての立場でどのように活用し保存できるか考えていきたい。

（寺崎）



写真2 須玖地区予備調査 住吉神社



写真3 春日地区屋敷神調査風景

## （1）令和5年度実施の文化財調査の概要

### ① I 旧須玖村の神社と天然記念物

現地調査及び岡本地区須玖地区の情報提供者から聞き取り調査を行った。

**熊野神社（岡本）** 令和5年5月17日に岡本在住の吉村恭子氏より聞き取りを行った。神社に関わる吉村家保存の資料を基に説明を受けた。資料がたくさんあり、全体の整理が必要と感じた。熊野神社は、吉村清四郎が元和年間（1615～1624）に建立したとされる。現在運営は法人として代表は春日神社宮司星野昌徳氏、他氏子（世話人会）が年末元旦祭、春祭り、秋の収穫に伴う注連縄づくり秋の大祭

などを継承している。吉村家保存文書資料の整理は相当のエネルギーが必要かと思われる。

令和5年6月1日、岡本在住の結城茂治氏より聞き取りを行った。89歳の結城氏は米作りをしながら長年神社の祭礼、どんかん祭り、注連縄づくり及び社殿改修全般の運営を実施してこられた。また、岡本地区の生活環境や学校などの変遷に詳しい。

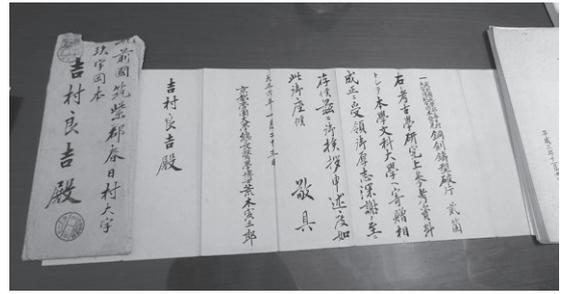


写真4 吉村家保存文書資料

**老松神社（須玖南）上の宮** 令和5年6月14日、須玖北在住の森英敏氏より聞き取り。建立は南北朝時代か。祭神は菅原道真。法人として代表は春日神社宮司星野昌徳氏。以前は宮座14名が、現在は農家減少に伴い宮総代6名で運営している。歳旦祭、春籠り、宮座秋大祭（注連縄づくり含む）を継続している。

また、この境内に白水大池のかさ上げ工事を完成させた武末新兵衛の記念碑がある。

この神社にはかつて絵馬堂が設置されていたが今はない。1352年当時この地は安樂寺（現太宰府天満宮）の所領であったことから祭神は菅原道真となっている。

**老松神社（須玖北）中の宮** 令和5年7月13日、須玖北公民館の協力を得て須玖北在住の大久保戦雄氏より聞き取り。法人として代表は春日神社宮司星野昌徳氏。責任社員2名、氏子50世帯。祭礼は少しずつ減少し、秋の大祭は10月15日に新米を稲藁で包み供える。祭神は菅原道真。注連縄柱に白水淡中将の書あり、市内各所に白水中将の揮毫あり。

（追記）ここ須玖出身の彫刻家大村清隆作の彫刻が日の出のふれあい公園他に置かれていることももっとPRしてほしい。

**住吉神社（須玖北）下の宮 ナギの杜** 令和5年7月19日、須玖北公民館の協力を得て須玖北在住の福田澄子氏より聞き取り。法人として代表は春日神社星野昌徳氏。氏子数は昭和30年ごろ11戸、現在8戸となっている。境内はナギの木が群生しており鎮守の森の雰囲気を残している。住吉三神を祀る。祭礼は現在元旦祭、それに11月の宮座で注連縄を4本づくり、一の鳥居、二の鳥居、ナギの木、猿田彦石碑に飾る。川久保川は昭和時代良き遊び場だった。

**白川伯王益寿稻荷神社** 京都伏見稻荷大社より勧請したもの。奉納絵馬が多種多彩。祭事は春日神社が担当し、管理は医療法人が行っている。

**こくんぞさん（須玖北2丁目）** 須玖北の住宅の一角に管理されていて足の神様と呼ばれている。

**地録天神（須玖北6丁目）** かつて産土神埴安命をまつっていたとされている。

**春日市指定天然記念物** 岡本の熊野神社境内に見られるオオバヤドリギ。強い生命力を表しているとヨーロッパ、日本で信じられている。

**福岡県指定天然記念物** 住吉神社ナギの杜に大木が群生している。かつては神社建築材料に用いられたとのこと。（有吉）

## ② F 春日と戦争 —20世紀—

(a) 米軍板付エアベース・アネックス（春日原住宅地区）勤務者への聞き取り記録

日時 令和5年2月23日（木）～10月8日（日）

対象者 氏名 庄島 俣生（しょうじま またお）氏 基地内での呼称 リオ・庄島

生年月日 大正12年3月28日（101歳）

プロフィール 学徒動員後、技術者育成のための技能者養成所（小倉陸軍造兵廠所管）に入所、技術班責任者に。陸軍8062部隊所属、高射砲隊に現役兵（二等兵）として配属。集団司令転属後、暗号兵となり戦地に赴任直前に終戦を迎える。

終戦後、実家の糸島に戻り西南大学英文科に入学。卒業後、C C D（民間情報検閲局。GHQ傘下の広島以西の全ての郵便物の検閲機関）に勤務後、基地の消防隊通訳として24歳で米軍から雇用される。（25歳頃からは福岡県雇用）

消防本部（F. Q.、4か所の分署あり）で受付・通訳業務及びクロージングセールスストアマネージャーに5年従事。32歳頃から西戸崎の西日本を統括する航空監視哨隊（レーダー部隊275航空監視哨隊）で人事管理者として勤務。

米兵の要望を受け、筑紫野市の大丸別荘を紹介したことがきっかけで転職、数年後、米軍に戻り、米空軍527航空監視哨隊のレーダー部隊の西日本全体（島根、山口、九州～沖縄）を統括する総本部へ転勤。ヘリコプターで基地間を移動していた。この間、副責任者に業務を任せ、TDY（テンポラリーデューティ、出張の意）で3か月間、テキサス州で語学教授法を学ぶ。春日市居住は昭和48（1973）年から。

エピソード トイレットペーパーの発注単位の「ダース」を「グロス」と間違えた。貨車で運ばれて来た時には何が来たのかといぶかしく思っていたら、全部トイレットペーパーでとんでもない量に驚いた。発覚前に処分してしまおうと、ちょうど来ていた台風のせいにしてしようとしたが、コースが変わり失敗。次に消火演習の的にすることを思いついた。山のように積み上げ、ガソリンをかけ点火後に消火した。消防隊員には燃えてしまうまで消火しないよう言っていた。当時としては、実にもったいない話であった。

（神崎）



写真5 消防隊通訳時代の庄島氏  
26～27才頃（1950～1952年頃）



写真6 消防隊勤務時代の同僚と庄島氏  
中列右から2番目（1945年頃）



写真7 F. Q. (Fire Head Quarter)  
消防本部（1950年頃）

(b) 戦争碑関連の調査

令和5年5月から6月まで、岡本戦没者慰霊碑、上白水慰霊塔、春日小倉公園墓地・留魂碑、春日神社石碑（乃木大将遺品収蔵の地碑、注連縄掛柱、出征記念碑、従軍者名碑）の4件について現地調査を行い調査票を作成した。いずれも現状は概ね良好な保存状態のように見える。野外施設のため定期的な確認をすること、現状変更の場合は管理者からの事前連絡が望ましい。（坂井）

(2) 文化財マップ作りワークショップについて

令和10年度に策定する『文化財保存活用地域計画』の一環として、令和5年度から、地域にある文化財の理解を深めてもらい、市民の郷土愛を醸成することを目的として、文化財マップ作りワークショップを実施した。このワークショップは、地域を散策して文化財を知る「フィールドワーク」と、フィールドワークで感じたことや参加者同士で地域の懐かしい話をしながら白地図に書き込みオリジナルのマップを作る「マップ作り」の2部構成である。ワークショップで作成したマップは、参加者をはじめ、地域の小中学校や自治会に配布するほか、ホームページに公開する。



写真8 フィールドワークの様子

令和5年度は、下記の通り開催した。

「文化財マップ作りワークショップ 須玖の歴史を知ろう！伝えよう！」



写真9 マップ作りの様子

令和5年5月20日（土）、5月27日（土） 須玖北公民館で開催

「文化財マップ作りワークショップ 下白水の歴史を知ろう！伝えよう！」

令和5年11月18日（土）、11月25日（土） 下白水北公民館で開催 （熊埜御堂）

表2 令和5年度 武末会会議内容

4月17日		文化財保存活用地域計画における武末会の目的 具体的な調査計画と調査担当者の確認 春日ベース・ハウスの会による聞き取り調査（Fグループ）報告
5月15日	春日市文化財課合同	春日市文化財課の主な事業について（奴国の丘フェスタ開催 水城跡整備計画 岡本地区史跡化について） 須玖・岡本地区事前調査（Iグループ）報告
6月19日		現在進行中の調査について（Fグループ）（Iグループ）聞き取り調査内容の中間報告 須玖地区文化財マップ作りワークショップ（須玖北公民館）実施報告 （意見交換）奴国の丘サポーターの会より ふれあい文化センターの複合施設に奴国王の像を作れないか
8月21日		現在進行中の調査について（Fグループ）（Iグループ）聞き取り調査内容の中間報告 小倉盆綱引き調査報告 （意見交換）奴国の丘サポーターの会より 春日市民未来年表（案）提出
10月16日	春日市文化財課合同	現在進行中の調査について（Fグループ）（Iグループ）の調査報告 春日地区調査（Eグループ）計画について 下白水地区文化財危機について
12月18日		現在進行中の調査について（Eグループ）聞き取り調査内容の中間報告 下白水地区文化財マップ作りワークショップ（下白水北公民館）実施報告
令和6年1月15日	春日市文化財課合同	今年度調査したテーマと経過報告 今後の調査の進め方について 今年度調査を文化財課年報に掲載 大土井水城の整備について 民俗企画展「ことわざと暮らしの道具」について
2月19日		春日地区調査（Eグループ）について活動報告 その他今後の活動について（振り返りと展望） 春日ベース・ハウスの会主催企画展「米軍ハウスのあった時代」開催案内

令和5年度  
春日市文化財年報

発行日 令和6年8月31日  
編集・発行 春日市協働推進部文化財課  
福岡県春日市岡本3丁目57番地  
印刷 大道印刷株式会社  
春日市日の出町6丁目22番地